第７節　総括

三内丸山遺跡では、平成４～６年（1992～1994）までの運動公園整備事業に伴う記録保存目的の発掘調査以降、新たに「発掘調査計画」を策定し、保存目的の発掘調査を行ってきた。この「発掘調査計画」は青森県教育委員会が設置した三内丸山遺跡発掘調査委員会で議論・検討し、文化庁の指導の下に策定したもので、概ね10年毎の発掘調査計画を示しており、現在第３期計画の途中にあたる。発掘調査計画では、これまでの発掘調査の現状と課題を整理した上で、発掘調査の目的を明確にし、特別史跡であることから遺跡保護を念頭に置いた調査方法等についても述べてある。

「発掘調査計画」によると三内丸山遺跡における発掘調査の目的は大きく「集落の全体像」及び「人と自然の関わり（環境史）」を解明することにある。この点について、これまで行われてきた発掘調査、整理作業、報告書刊行等について、長く三内丸山遺跡の発掘調査や整備事業等に関わったものとして総括する。

１　調査成果と調査目的の達成について

（１）集落の全体像の解明

集落の全体像とは、具体的に集落の範囲、集落構造、その変遷といった内容を含むものである。三内丸山遺跡は前期中葉から中期末葉にかけて長期間継続した拠点集落であるが、その間、集落構造は一定ではなく、時代（時期）によって変化することがこれまでの発掘調査で明らかとなっている。また、広大な遺跡について全面発掘調査を行うことも現実的な話ではない。したがって、三内丸山遺跡の発掘調査で当面解明できるのは中期の集落に関することになる。

前期についてはこれまでも繰り返し述べているとおり、中期に本格に形成が始まる南北の大規模な盛土を除去しない限り、集落構造を明らかにすることはできない。盛土は三内丸山遺跡のみならず円筒土器文化圏においても特徴的な遺構であり、出土遺物も膨大であるため、遺跡保護の観点から必要最低限の発掘調査に止めるのが当然である。三内丸山遺跡は特別史跡であり、遺跡の価値を損ねることなく後世へ確実に伝えなければならないことから、この点については疑問を挟む余地はない。将来において非破壊で地下遺構の状況が把握できる画期的な方法が開発されない限り、安易に発掘調査を行うことは許されない。

さて、中期の集落については、運動公園整備事業や都市計画道路整備事業に伴い大規模な発掘調査が行われたこともあってその内容が把握されているものの、依然として発掘調査の及ばない未調査区が存在することも事実である。未調査区を解消するため計画的に発掘調査を行い、整理作業や報告書刊行を通じて明らかとなったことについてこれまでに得られた知見を加え整理する。

①中期前葉

基本的には北地区に集落は展開し、列状墓（道路を含む）や南・北・西盛土の形成、大型掘立柱建物、中央部の掘立柱建物の構築が本格的に行われる。貯蔵穴も一定の場所に集中する。前期末葉から集落の拡大化の傾向が見え竪穴建物数、土器や土偶なども増加する。

②中期中葉

集落は大規模となり、一気に南地区、近野地区へも拡大する。北地区においても丘陵全体に広がる。列状墓、各盛土、掘立柱建物の形成や増築が最も盛んに行われる。竪穴建物数も最も多い。具体的な集落構造については前節で述べているのでここでは省略する。

③中期後葉

集落は引き続き大規模であり、その範囲はほとんど変わらないものの各遺構の分布密度はやや低下する傾向にある。列状墓には、確実に環状配石墓が加わり、各盛土の形成、大型掘立柱建物、掘立柱建物の構築も行われるが、最花式期を最後にこれらの形成、構築は終わる。すでに土器は東北南部の影響を受けた榎林式、最花式と変遷するが、集落構造は前段階と同様であり、劇的に大きく変化することはない。

④中期末葉

これまで大木10式併行期についても中期後葉の中に含めて集落構造を検討してきたが、最花式から大木10式併行期にかけて大きな画期が認められるため、あらためて中期末葉として記述することにした。

まず、層序では最花式に見られた暗褐色土は見られず、肉眼的には黒ボク土と呼べる黒褐色土の形成が始まる。暗褐色土は人為によるものと考えられているが、この黒褐色土は微粒炭を多く含んでおり、後世黒色土化したものではなく、最花式から大木10式併行期にかけて、土壌が大きく変わるほど環境の変化があったことが推測される。集落そのものも規模が縮小し、集落構造も大きく変化する。再び北地区を中心に居住域が点在するようになる。環境の変化と集落構造の変化が連動しているように思えるが、それが一時的な寒冷化によるものかは現時点では判断できない。

以上については把握することができた。一方で課題もまた顕在化してきたといえる。例えば、中期中葉の集落の大規模化に伴って見られた、複数の居住域の存在について、土器型式での同時性は確認できたとしても厳密な意味での同時性を保証するものではない。このことは、集落の大規模化やその後の縮小化の過程を考える上で、居住域を同じくするグループの集合体の規模や数が集落規模と密接に関係するかどうかが重要である。また、縮小化に関しては、岩手県一戸町御所野遺跡に見られるような中央広場を中心とした居住域の分散との関連性の有無も重要である。御所野遺跡では周辺集落の拡散・分散と同時か先行して同じ集落内で居住域の拡散の傾向が見られる。三内丸山遺跡の終焉と御所野遺跡の開始は時間的に近接しており、円筒土器文化圏の消長を考える上で重要な視点となる。

個々の遺構では、捨て場と盛土の問題がある。基本的には前期は捨て場、中期は盛土と現時点では整理している。両者ともに一定の空間的広がりを持ち、大量の遺物が廃棄されることから、目的や用途を考える必要がある。完形ないしは復元可能土器が目立ち、一見して不用品を廃棄したものではないことは明らかである。石器について完形品が多いものの、破損したものや、石棒や石皿類のように原型を止めないほど破壊されたものも含まれている。前期においては祭祀遺物がそもそも少ないものの、小型土器や前期末には土偶も出土し、さらに複数土器型式にわたり形成される場合もあることか

ら、意味のある施設として考える必要がある。

中期において前期の捨て場との違いは年代もさることながら大量の土砂の廃棄の有無による。盛土は各種遺物が土砂によって埋められていることに特徴がある。捨て場・盛土ともに廃棄の連続により形成されるが、その廃棄単位を捉えるのは非常に難しい。中期では土砂の廃棄が伴うため、廃棄単位を捉えることは可能だが、その過程はあまりにも複雑である。まるで貝塚の貝層における廃棄単位を捉えるのと同様である。また、中期では祭祀遺物も多様となるため、土偶に代表されるように集落内では突出した出土量を示す。さらに石鏃のように、廃棄に時間的な差があっても同一地点を選んだような出土状況を示す場合もあり、その空間への執着が感じられる。

しかし、祭祀・儀礼に使用したと考えられる道具類を埋めてはいるものの、その場で実際の行為が行われたかどうかははっきりとしない。三内丸山遺跡では北・南盛土については廃棄の連続によって形成されるが、西盛土では盛土層中に焼土が形成されているものがあり、実際にその場で火が燃やされたものと考えられる。

捨て場・盛土ともに各種遺物の特異な出土状況から注目されてきた。発掘調査の事例も増え、最近では捨て場・盛土の目的を後世のアイヌ民族に見られる「送り」と同一視する風潮が高まっている。北海道内では捨て場や盛土の中から、墓や動物儀礼の痕跡が見られるなど確かに類似する要素が多いことも指摘される。県内においても、捨て場と小児用埋葬施設が重複する場合や三内丸山遺跡の西盛土では盛土・土坑墓・道路が共存する場合があり、葬送とも密接な関係があるようにも見える。

盛土の目的を検討する前に、まずは盛土の定義を明確にする必要があるとともに、実際に発掘調査された「送り」の場と比較するなど、さらに検討を重ねる必要がある。

以上のように集落の全体像の解明は一定の成果があったものと考えられる。

（2）人と自然の関わり（環境史）について

これまで辻誠一郎を中心に環境復元が試みられてきた。辻は花粉分析等の植物遺体の諸分析による環境復元にとどまらず、集住と生活、生業に範囲に関する様相を三内丸山集落生態系と呼び、その解明に意欲的に取り組んできた。その点については辻の論考（第５章第６節第２項）を参照されたい。

これまで得られた膨大な資料を踏まえ、辻は集落とその周辺環境までを含めた環境変遷を示した。それによると、集落が成立したころには海岸線はすでに後退しており、陸奥湾と集落の間には沖館川低地が形成され、当初想定されていた干潟はなく、現在とほぼ同じ距離であったことを指摘した上で、沖館川を通じて集落と陸奥湾がつながっていたとし、このことは西本豊弘や樋泉岳二らによる魚骨等の分析からも陸奥湾内における多様な水産資源の利用を裏付けるものであるとした。これまで、地形的観点から縄文海進期の海岸線は推定されていたが、縄文海進の年代が詳細に把握されるにつれて三内丸山遺跡における集落の形成以前にすでに海進期のピークは過ぎ、海退期に入っていた可能性は高いと考えられる。

一方、青森平野では円筒下層ａ式の出現と同時にクリ林が急速に拡大したことを指摘し、三内丸山集落において確認された同様の状況が広範囲にわたって起きていたことを示し、円筒土器文化の成立と十和田火山の大規模な噴火とが密接な関係にあるとした。集落形成以前、三内丸山周辺一帯はブナやドングリ類などの北方ブナ帯と呼ばれる落葉広葉樹林であり、居住開始とともにこれらは衰退し、

クリが優位となり大半を占めるようになる。ブナやドングリなども有用な食料資源であったが、結果的にクリに置き換わり、クリ林が成立したとし、このことは人為によるものとしている。このような植生環境を「縄文里山」と定義した。さらに集落の終焉とともに再びブナ林に戻ったとも指摘している。

円筒土器文化の成立・発展した背景として、基本的な植生環境としての北方ブナ帯と縄文里山の存在がある。北方ブナ帯は縄文時代において北海道南部まで広がっていることがすでに指摘されており、円筒土器文化圏のほぼ北限とも重なる。北方ブナ帯は世界自然遺産白神山地に代表されるように生物多様性に富み、ブナやクリ、クルミなど有用な食料資源にも恵まれている。東北北部では北方ブナ帯が山地にとどまらず、海岸線まで分布し、人間の活動領域に近接もしくは包含する状況となっており、このことは縄文人にとって生物多様性に富んだ資源を利用できる格好の機会を提供することともなった。さらに十和田火山の噴火によって、この植生環境が大きなダメージを受け、その中から最も早く復興した堅果類を積極的に利用することによって、一気に円筒土器文化の成立を促進させた可能性は高い。今後においては、直接的な噴火の影響が軽微であった地域との比較検討をさらに進めることによって、これまで提示された仮説をより補強することになるものと考えられる。環境史については、集落形成以前から集落の発展、終焉まで、高精度年代測定の結果による時間軸が設定され、詳細な環境変化、辻の言う三内丸山集落生態系の変遷について大きな成果が得られたものと言える。

さらに辻が指摘しているように、集落の変遷と環境変化は連動する。このことについては筆者も以前指摘したことがある。今後の課題として、より詳細にこの点について検討する必要があり、少なくとも集落の形成、大規模化、拡散・分散化、終焉など、三内丸山集落史と環境変化の相関について、ひとつの遺跡、ひとつの集落の視点だけではなく、青森平野や円筒土器文化圏の中での検討も欠かすことができないとも考えられる。

なお、クリに関しては人間活動が密接に関わることから、鈴木三男、南木睦彦、佐藤洋一郎などがそれぞれの専門的な立場から栽培の可能性を指摘している。円筒土器文化の北海道への進出とともにクリが増加することも人間活動との密接な関係そのものを示している。今後多様な植生環境の中でクリが選択された理由について考古学や民俗学的なアプローチを今後とも続けていくことが必要と考える。

2　その他の成果について

（1）円筒土器の成立と終焉

長谷部言人が命名した円筒土器は、上層式と下層式に大別された後、山内清男は下層式を前期に、上層式を中期に位置づけ、円筒土器下層式をａ・ｂ・ｃ・ｄの４類に分類し、編年的序列を提示するとともに、上層式については２つ以上に分類できることを指摘した。江坂輝弥は青森県八戸市蟹沢遺跡出土を分類し、前期末の円筒下層ｄ$_1$式と中期初頭の円筒上層式を繋ぐものとして円筒下層ｄ$_2$式を設定し、秋田県の大和久震平は円筒下層ｄ式と円筒上層ａ式をつなぐものとして狐平式を提唱した。

さらに江坂は青森県つがる市石神遺跡の発掘調査報告書において、下層式を７型式15類に、上層式を７型式10類に細分し、その後円筒土器文化研究の第一人者である村越潔は『円筒土器文化』において下層式をａ・ｂ・ｃ・ｄ$_1$・ｄ$_2$式の５型式６類に、上層式をａ・ｂ・ｃ・ｄ・ｅ式の５型式２類とした。こ

こに円筒土器の編年はほぼ確立し、その後この村越編年が定着することとなり、土器の細分が進んでいる現在においても基本的には変わってはおらず、村越編年についても大幅に修正する状況にはない。

円筒土器の成立と終焉について長年の課題があり、どちらも東北南部を中心に分布する大木式土器の影響を受けていることは間違いなく、大木式の編年や細分とも関係する。

まず、成立については円筒下層ａ式の内容を明らかにすることが必要である。このことは後続する円筒下層ｂ式との分類基準を明確にすることでもある。当初山内によって設定された段階においても、その根拠となる基礎的な資料がしばらく公開されていなかったこともあって、内容が不明確なまま取り扱われ、研究者によってその理解が大きく異なってきた。

また、両型式が明確な層位的な上下関係を持って出土した遺跡がないこともあって、その混乱に拍車をかけることともなった。したがって、下層式前半の土器が出土してもそれぞれ分離されることなく円筒下層ａ式・ｂ式と一括して発掘調査報告書へ記載され、また、研究者の理解不足から誤った記載がされることも少なくなかった。しかしながら、昭和60年代以降、良好な資料が増加し、この問題についての研究が大きく進展した。

終焉については、江坂は当初円筒上層ｆ式を設定し、円筒土器文化の中で理解しようとしたものの、村越は円筒上層ｆ式を円筒土器とは見なさず、円筒上層ｅ式を円筒土器の最後に位置づけた。この考えは現在でも支持されているが、円筒上層ｅ式以降の榎林式（大木８ｂ式併行）への変遷過程が十分に解明されていないこともあって、結論に至っているわけではない。

土器そのものでどこまで文化全体を規定できるのか、他の遺物や遺構などの要素について土器編年と同じように詳細な変遷が把握可能となった現在では、総合的に検討の上、円筒土器文化の成立と終焉についてもさらに検証の必要があろう。

また、山内により下層－前期、上層－中期とする時期区分についても、円筒下層ｄ式を細分される形でｄ$_2$式が型式設定された経緯もあり、前期末の年代観を与えられてきたものの、土器以外の竪穴建物の構造の変化や土偶の増加など、文化的にはこの段階に大きな画期が認められることは確実である。円筒上層ａ式を中期初頭に位置づけて良いのかという問題もあり、広域編年における北陸地方との併行関係など課題が少なくない。円筒下層ｄ$_2$式を中期初頭に位置づけることも検討に値する。

①円筒下層ａ式とｂ式の分類基準

三内丸山遺跡の発掘調査では両者の分類基準や変遷について層位的に確認されている。第６鉄塔地区では、縄文時代前期は低湿地、前期末以降の上層は盛土遺構となっており、円筒土器全型式が出土している。調査を担当した小笠原（青森県教育委員会1998）によると、円筒下層ａ式・ｂ式は上位から第Ⅴｂ層、第Ⅴｃ層、第Ⅵａ層、第Ⅵｂ層から出土し、その特徴を見ると漸移的な変化を示しており、このような状況が円筒下層ａ式とｂ式の区分を困難にした大きな要因であると指摘している。

具体的には主に①口縁部文様帯に結節回転文、胴部に斜行縄文施文、②口縁部文様帯に結節回転文＋単軸絡条体の混在、胴部に縦走縄文＋単軸絡条体１類、③口縁部文様帯は単軸絡条体主体、胴部も単軸絡条体１類が主体、の変遷となり、②の段階で口縁部文様帯が確立、分化したと言う。つまり、第Ⅴｂ層は円筒下層ｂ式の新段階、第Ⅴｃ層は典型的な円筒下層ｂ式、第Ⅵａ層・第Ⅵｂ層ともに円筒下層ａ式であるが、第Ⅵａ層については円筒下層ｂ式への過渡的な様相を示すものとした。

なお、従来円筒下層ａ式・ｂ式の分類基準としてきた、底部への縄文施文や口縁部文様帯の隆帯は適切ではないこともあらためて指摘していることは重要である。これについてはすでに三宅（三宅1989）も指摘していることでもあり、それを層位的に追認したものである。他に函館市八木Ａ遺跡や戸井貝塚、つがる市田小屋野貝塚でも同様のことが指摘されている。

円筒下層ａ式・ｂ式の分離は工藤大（工藤1995）が指摘しているように、山内による型式設定の際に口縁部文様帯に施文される結節回転文に着目し二分されたきわめて一体性の強い土器であり、層位的にも明確な上下関係を持って出土する例が少ないことも影響し、曖昧なまま現在に至っている。新たな要素や属性の有無といった観点での分類ではなく、山内が指摘しているように型式は比率の変化であるということに留意し理解することが現段階では適切であるという指摘に止めておきたい。

②円筒土器の出現と円筒土器文化の成立

従来のように円筒下層ａ式の出現をもって、円筒土器文化の成立とすることに対して異論はないが、むしろ円筒土器特有の技法が顕著となる円筒下層ｂ式以降がよほど円筒土器という名称にふさわしいと言って良い。

下層ａ式は口縁部文様帯に結節回転文を施文する土器群であるが、このような手法は大木式からの移入であると工藤大は指摘している。さらに階上町白座遺跡においては結節回転文と縄の側面圧痕を併用する例があり、これについては在来的な手法であるともしている。下層ａ式前半は口縁部文様帯も狭く、結節回転文も２～３条巡らしていたものが、円筒下層ａ式後半には器形の長胴化に伴い、口縁部文様帯も広くなり、施文文様も多様となる。この段階をもって大木式の影響から明確に分離されるとともに円筒下層ｂ式以降の在来的な縄の側面圧痕を多用することでいわゆる円筒土器様式は確立するものと言える。ただ円筒土器の最大の特徴である、口径と底径の差が少ない器形は円筒下層ａ式になって見られるものであり、この特徴の出現をもって円筒土器の成立とすることについては基本的に正しいものと理解できる。

しかしながら、円筒土器直前の早稲田６類や芦野Ⅱ群、深郷田式土器、いまだその編年的位置づけがはっきりとしない発茶沢（２）遺跡出土の結節回転文施文土器との関連性についてはさらに検討する必要がある。

また、辻や茅野嘉雄は十和田火山の噴火に伴う中掫火山灰より上位で円筒下層ａ式が出土することから、十和田火山の噴火と円筒土器文化の成立は密接な関係があるとし、茅野は円筒下層式以前の諸土器型式を伴う地域文化圏が噴火により壊滅的な打撃を受け、それらが統合されるように一気に円筒土器文化が成立したとしている。これまで円筒土器以前の土器については資料が少なく、確認できる土器型式を一系統として整理し、編年的序列を与えることについての懐疑的な意見を示したというで注目される。以前から県内の研究者の間では、在地の小土器文化圏の統合という経緯の中で、円筒土器文化の成立が語られることはあったが、その要因を大規模火山噴火に求め、環境の劇的変化が円筒土器文化の成立をもたらしたという見解は新鮮である。しかしながら、火山噴火の年代と円筒下層ａ式の暦年代が年代測定の上ではほぼ一致するとしても円筒土器文化以前の諸土器型式の時間幅を考えると、円筒土器文化の成立とはやや時間的空白があり、さらに検討を進める必要がある。

③大木式との併行関係

円筒土器と大木式土器との併行関係について、発掘調査で確認された共伴関係としては前期の円筒下層ａ式ではきわめて少ない。白座遺跡では円筒下層ａ式と大木２ａ式の特徴を持つ土器が一緒に出土し、ほぼ同時期と考えられている。円筒下層ｂ式では秋田県上ノ山Ⅱ遺跡で大木４式と、円筒下層ｄ式と大木６式の併行関係が確認されている。中期では円筒上層ｂ式が岩手県西曽根遺跡で大木７ｂ式と、円筒上層ｃ式は岩手県古館遺跡では大木７ｂ式と、円筒上層ｄ式は岩手県西田遺跡で大木８ａ式と併行することが確認されている。

これまで前半の円筒下層ａ式との併行関係については大木１式、２ａ式、２ｂ式などと併行する諸見解が示されているものの、確定はしていない。円筒下層ｂ式以降、円筒上層ｅ式までの併行関係については土器型式の認定の問題もあって細部では違いが見られるものの大筋では矛盾のないものとなっている。

なお、北海道道南地域では複数の土器型式が同一の竪穴建物から共伴する例が知られている。蛇内遺跡では円筒上層ｂ式・ｃ式・ｄ式が、森越遺跡や権現台場遺跡では円筒上層ｂ式・ｃ式が、オバルベツ遺跡では円筒上層ｂ式・ｃ式・ｄ式が確実に共伴して出土している。このような複数の土器型式が同時存在する事例は本州では確認されていない。このことは、土器の型式変化が道南と本州では時間差があることを示しており、土器型式の情報発信源と受容先とがあることも考えられる。時期毎の遺跡分布を見ても青森県を中心に円筒土器は成立したことはほぼ確実であり、なぜ北に向かった情報のみにこのような現象が見られるのか興味深い。少なくとも中心地域と外縁部では土器型式の変化、情報の変化にタイムラグが生じている可能性は高い。

なお、参考まで平成24～26年にかけて、三内丸山遺跡保存活用推進室が行った『円筒土器文化総合研究データベース作成』の成果として各地域の土器型式との広域編年案を示す。

円筒土器文化データベース土器編年案

<table>
<tr><th colspan="3"></th><th colspan="2">岩手・秋田</th><th colspan="3">青森</th><th colspan="2">北海道</th></tr>
<tr><th colspan="3"></th><th colspan="2"></th><th colspan="3"></th><th>道南</th><th>道央</th></tr>
<tr><td rowspan="12">前期</td><td rowspan="3">前葉</td><td>大木1</td><td rowspan="2">白座</td><td rowspan="2">早稲田6</td><td rowspan="2">表館</td><td rowspan="2">深郷田</td><td rowspan="2">芦野1群</td><td>石川野</td><td>綱文</td></tr>
<tr><td>大木2a</td><td>春日町(椴法華)</td><td>静内中野(トビノ)</td></tr>
<tr><td>大木2b</td><td rowspan="2">芦野2群</td><td>大津3群</td><td>加茂川(静内中野)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中葉</td><td>大木3</td><td rowspan="3">茂屋下岱</td><td colspan="3" rowspan="2">円筒下層a</td><td rowspan="2">椴川</td><td rowspan="2">卿館遺跡・上花畔1遺跡A地区</td></tr>
<tr><td>大木4</td></tr>
<tr><td>大木5a</td><td colspan="3">円筒下層b</td><td>サイベ沢Ⅰ</td><td rowspan="2">植苗</td></tr>
<tr><td rowspan="3">後葉</td><td>大木5b</td><td colspan="4">円筒下層c</td><td>サイベ沢Ⅱ(森川)</td></tr>
<tr><td>大木6(古)</td><td>吹浦</td><td colspan="3">円筒下層d_1</td><td rowspan="2">サイベ沢Ⅲ</td><td>大麻Ⅴ</td></tr>
<tr><td>蓮塚</td><td>大木6(新)</td><td>狐岱</td><td colspan="3">円筒下層d_2</td><td>フゴッペ貝塚1</td></tr>
<tr><td rowspan="12">中期</td><td rowspan="3">前葉</td><td>大木7a</td><td colspan="4">円筒上層a_1</td><td rowspan="2">古武井</td><td>フゴッペ貝塚2</td></tr>
<tr><td rowspan="3">大木7b</td><td colspan="4">円筒上層a_2</td><td>フゴッペ貝塚3</td></tr>
<tr><td colspan="4">円筒上層b</td><td>サイベ沢Ⅴ</td><td>オサツ</td></tr>
<tr><td colspan="4">円筒上層c</td><td>サイベ沢Ⅵ</td><td>手稲前田・厚真1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中葉</td><td rowspan="2">大木8a</td><td rowspan="2">萱刈沢b3類</td><td colspan="2">円筒上層d</td><td>泉山</td><td>サイベ沢Ⅶa</td><td>萩ヶ岡1</td></tr>
<tr><td colspan="2">円筒上層e</td><td>榎林Ⅰ</td><td>サイベ沢Ⅶb</td><td>萩ヶ岡2</td></tr>
<tr><td rowspan="4">後葉</td><td>大木8b</td><td colspan="3">榎林</td><td>見晴町</td><td>天神山(萩ヶ岡3)</td></tr>
<tr><td>大木9a</td><td colspan="2" rowspan="2">最花</td><td rowspan="2">中の平3</td><td>大安在B</td><td>柏木川(萩ヶ岡4)</td></tr>
<tr><td>大木9b</td><td>ノダップⅡ</td><td rowspan="2">北筒(トコロ6類)</td></tr>
<tr><td>大木10</td><td colspan="2">大木10式併行</td><td>大曲</td><td>煉瓦台(静狩)</td></tr>
</table>

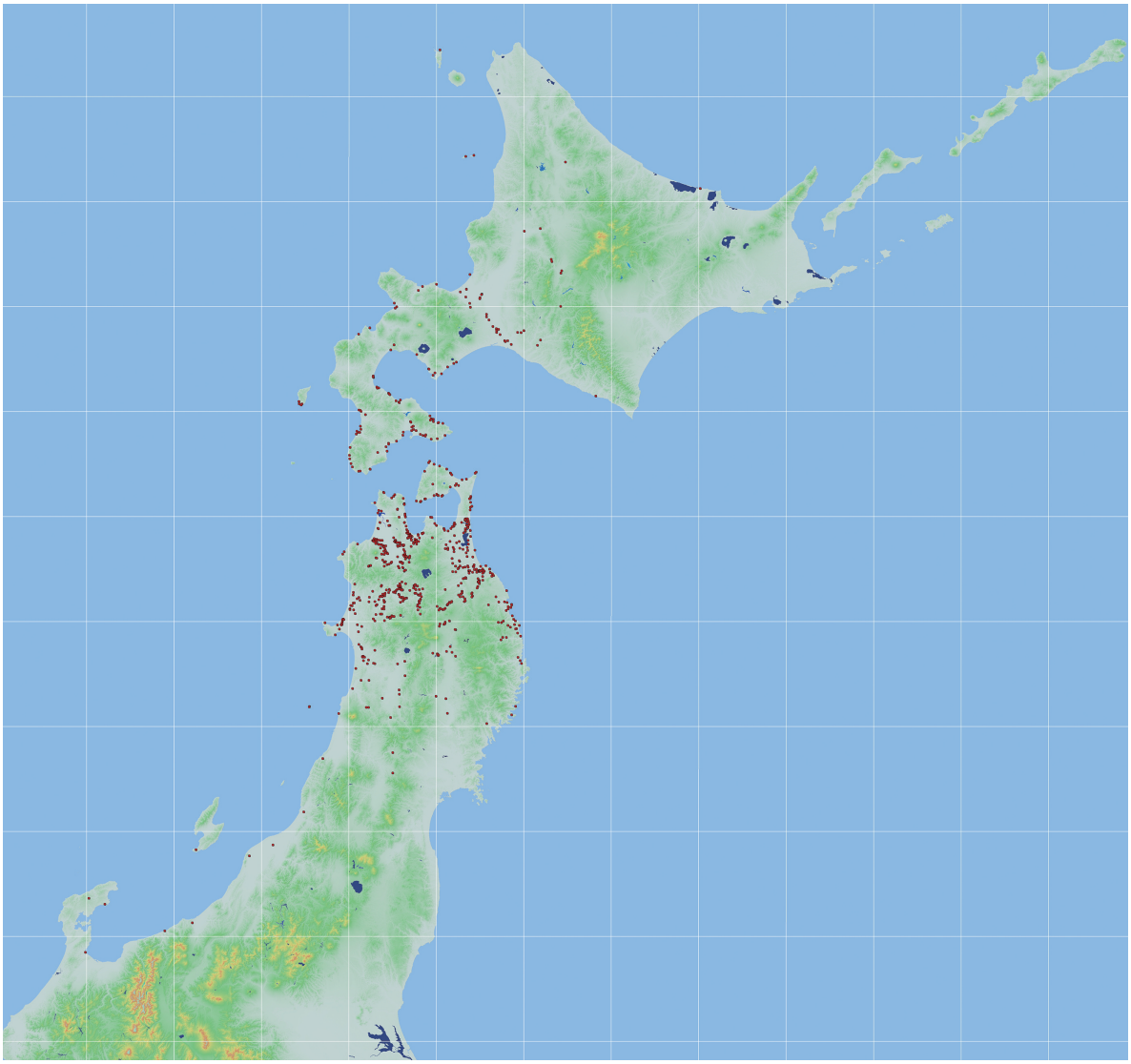

図５-130　円筒土器出土遺跡

（２）円筒土器文化について

三内丸山遺跡の集落構造の変遷を考えるにあたって、周辺集落との関係も重要である。ひとつの集落の消長は周辺集落と相関関係にあるといってよい。あるいは円筒土器文化圏の中での集落の動向といった視点も欠かすことはできない。三内丸山遺跡保存活用推進室では、平成24～26年にかけて、『円筒土器文化総合研究データベース作成』を進め、筆者も参加する機会を得た。この研究は円筒土器文化の現状を把握することを目的に、集落遺跡を対象として、悉皆的な報告書の内容確認を行い、集落の時期や遺構・遺物に関する情報を集成したものである。この研究を踏まえ以下の点について若干の考察を加えることとする。

①円筒土器文化圏における遺跡分布の傾向

円筒土器文化研究の第一人者である村越潔によると平成24年度に刊行した『青森県史　別編　三内丸山遺跡』において、円筒土器出土遺跡は257遺跡確認され、前期207遺跡、中期146遺跡とした。本研究では1,117遺跡、前期697遺跡、中期618遺跡を確認し、その数は４倍強となった。

さらに、その分布範囲は円筒土器文化成立期より主要な分布圏は不変であるとしている。北限は石狩低地帯で遺跡数はやや少なく、青森県全域、岩手県馬淵川・新井田川流域以北、秋田県米代川以北の北緯40度より北側に濃密に分布する。つまり時期毎に分布範囲は大きく変わらず、河川や脊梁山脈を越えて空白地域への進出などは見られるものの、成立当初から円筒土器文化圏は常に一定の領域を保持していると言える。

しかし、遺跡数は時期的に大きく変動する。前期後葉に最も多く、中期中葉にはほぼ半減する。前期中葉を成立期、前期後葉を増加期、中期前葉を安定期、中期中葉を集約期と呼ぶこともできる。この遺跡数の増減は各地域における集落の集約や拡散・分散化といった状況とも符合する。この点については『特別史跡三内丸山遺跡年報-19-』を参照されたい。

今後、このデータベースを活用して、集落、集落を構成する各種遺構、土偶などの出土遺物の編年や地域性といった視点での研究の進展を期待するものである。

②青森平野における集落の動向

このデータベースを活用し、さらに最近の発掘調査成果をもとに集落の傾向を表に示した。これによると、青森平野西部の沖館川流域、平野東部、平野南部の３地域に円筒土器文化の集落は分布することがわかる。さらに前期中葉には青森平野西部の沖館川流域に小中規模集落の集中が見られ、後葉では東部と南部でも中規模集落は増加する。中期前葉には三内丸山周辺以外にはほとんど集落は見られなくなり、規模も小さくなる。三内丸山遺跡とその周辺への集中傾向を示していると考えられる。中期中葉では、集落数は減少し、東部や南部では小規模集落しかない。三内丸山遺跡が最大規模となり、周辺に小中規模集落が分布していることから沖館川流域の集落の集中化が顕著となるなどの傾向が見える。つまり三内丸山遺跡は集落成立期より一貫して青森平野における中心集落であり、中期中葉にはさらに大規模集落として顕在化し際だった存在となる。なお、八戸市域では三内丸山遺跡のような長期継続する遺跡は見られず、是川一王寺遺跡、是川中居遺跡がその可能性があるものと考えられる。また、小中規模集落も時期毎に転々と移動している様相も明らかとなっている。

次に土器型式を指標として集落の存続期間について見る。なお、土器型式は一定の存続期間がある

表　青森平野における集落の動向

時代	型式名＼遺跡名		三内丸山	孫内	熊沢	三内	岩渡小谷(3)	岩渡小谷(4)	二股(2)	三内霊園	三内沢部(1)	石江	三内丸山(6)	三内丸山(9)	近野	四戸橋(1)	栄山(3)	朝日山(2)	山吹(1)	新町野	野木(1)	横内(1)	横内(2)	桜峯(1)	大谷沢野田(1)	玉清水(3)	蛍沢	稲山(1)	宮田館	上野尻
縄文時代前期	円筒土器	円筒下層a式	■		■				■			■					■								■					
		円筒下層b式	■		■			■	■		■	■					■					■			■			■		
		円筒下層c式	■					■				■														■		■	■	
		円筒下層d_1式	■					■				■								■	■			■		■		■	■	■
		円筒下層d_2式	■													■				■	■	■	■	■				■		
縄文時代中期		円筒上層a式	■				■			■			■	■		■				■	■			■						
		円筒上層b式	■															■												
		円筒上層c式	■								■		■	■				■	■											
		円筒上層d式	■								■		■	■	■	■											■			
		円筒上層e式	■								■		■	■	■												■			
	大木式系土器	榎林式	■												■															
		最花式	■			■									■															
		大木10式併行	■	■																										

ことから、この表における集落の存続期間の連続性そのものを必ずしも担保するものではないことに留意されたい。

この表を見ても三内丸山遺跡は際だった継続性を示しており、類似の傾向を示すものはない。また、前期で終わるもの、中期になって形成するものなど、前期から中期にかけて連続するものも意外と少ないことがわかる。さらに円筒土器文化の最終にあたる円筒上層ｅ式で終わる集落が多く、後続する榎林式期や最花式期まで継続するものは三内丸山遺跡と隣接する近野遺跡（時期によっては三内丸山集落の中に含めて考えるべきとの指摘もある）のみであり、三内丸山遺跡以外に榎林式以降新たに集落が形成されることはなく、円筒上層ｅ式期と榎林式期では連続性は三内丸山遺跡以外では見られない。逆に拠点集落のみに円筒土器文化以降の土器型式による集落が確認でき、やはり拠点集落のひとつの性格、側面を示しているものと考えられる。

円筒土器文化が終わってもなお、継続して集落が営まれることは文化の連続性や終焉をどのように規定するかという大きな問題的にも繋がるものである。

当初、三内丸山遺跡は周辺に衛星的な集落を抱えた集落、あるいは子村と母村から構成される集落として理解されていたが、周辺集落の発掘調査が進んだこともあって、集中型居住によって大型化、大規模化したといえ、終焉に際しても拡散・分散化によるものと理解するのが妥当と考えられる。ただし、この拡散・分散化の要因が何であるかはさらに検討を要する。また、そもそも三内丸山遺跡に集中居住する要因についても不明な点が多い。ただ、集中居住が、遠方との交流・交易の活発化、盛土や大型掘立柱建物の構築、土偶や祭祀遺物の増加、など集落における社会の成熟、社会規律の明確化に大きく貢献したことは確実であろう。

３　三内丸山遺跡と文化財保護

三内丸山遺跡は佐賀県の特別史跡吉野ヶ里遺跡と同様に記録保存から一転現状保存された国内でも希有な遺跡である。遺跡の規模や内容はもちろんだが、保存に至る経緯も含めて、「西の吉野ヶ里、東の三内丸山」と称される由縁でもある。進めていた野球場建設工事の中止、発掘調査の原因となった運動公園整備事業の見直し、現状保存後の遺跡の保存・活用等、県にとっても大きな決断と課題解決が求められることになった。遺跡の整備・活用に関してはこれまでも様々な機会を通じて述べてきたので、ここでは発掘調査や整理作業等に関して、どのような取り組みがされてきたのかを紹介する。このことは今後の遺跡の保存・活用を考える上で重要な示唆を与えるものと考えられ、あえて取り上げることにする。

（１）発掘現場の積極的な公開

安全性を確保した上で、見学通路を設定し発掘調査が行われている間は常時公開している。通常、市民が発掘現場を見る機会はきわめて少ない。現場を見学することによって、発掘調査の方法や状況を直接理解していただく格好の機会である。遺跡見学者から寄せられた意見でも実際の発掘現場を見たいとの声は大きい。確かに衆知の中での発掘作業は、調査担当者や発掘調査作業員の負担は少なくないかもしれないが、それ以上の効果が期待できることを認識しておくべきである。ただし、このことは全ての発掘調査に該当することではなく、記録保存の場合には適さない状況もある。しかし、保

存目的の調査は初めから公開を前提として発掘調査計画の策定や方法を検討するくらいの意識の改革が必要である。

（2）毎日の現場説明会

発掘現場の公開は確かに遺跡への興味関心の高まりが期待できるものの、直ちに遺跡の理解にはつながらないこともある。三内丸山遺跡では、発掘調査が行われている日は毎日定時の現地説明会を行っている。また、必要な見学資料も作成することもある。発掘担当者が自ら説明をすることは、遺跡の理解を一層進めることはもちろんだが、説明者の発掘調査の現状の整理や説明内容の検討など文化財保護行政に関わる人間の基本的な資質向上にも好影響を与えることにつながる。いくら考古学的に貴重な成果があったとしても専門家や研究者以外にも伝わるように務めることが不可欠である。遺跡は専門家だけのためにあるのでは決してない。

（3）調査成果の速報展示

調査終了後においては成果を速やかに市民に向けて目に見える形で発信することが必要である。成果をまとめた正式な発掘調査報告書の刊行までは多くの時間と労力を要する。その間、何もしないということは保護側の怠慢とも言える。より速く、わかりやすく、質の高い情報を提供することを心掛ける必要がある。展示の準備作業を通じて担当者自身が課題等を整理する良い機会ともなる。

（4）特別研究の推進

継続的な発掘調査や調査研究を進めるにあたって、さまざまな課題等が生じるが、それらの中には三内丸山遺跡の成果だけでは解決できないことも多々ある。周辺遺跡はもちろん同種同時代の遺跡、同じ地域文化圏の遺跡、他地域文化圏、場合によっては海外の事例も参考にする必要がある。三内丸山遺跡では平成８年度から特別研究推進事業を進め、三内丸山遺跡や縄文文化に関する研究テーマを設定し、公募、採択し、研究委託を行ってきた。その概要については年報やホームページで紹介をしている。

最近では三内丸山遺跡保存活用推進室が中心となって、共同研究に取り組んでいる。平成24～26年には『円筒土器文化総合研究データベース作成』を行い、今後の研究を進めるための基礎的な情報収集と整理を行った。この成果についても年報・ホームページで紹介をしているので参照されたい。

とかく、文化財保護行政において担当者個人の専門的な資質・能力に依存する調査研究が多い中で、組織的、継続的な調査研究を進めるためのひとつのモデルである。人事異動があっても、専門家による委員会の世代交代があっても遺跡はなくならい。１地点の発掘調査を終える度に、解決されるものもあれば新たに出てくる課題もある。そもそも遺跡の保存・活用を支えるのは専門的な調査研究の継続が不可欠であり、それができる環境づくり、人材の確保、体制整備が必要であることは肝に命じておくべきである。

（5）その他

これまで紹介した以外に、遺跡報告会、ホームページでの発掘調査の進捗状況の提示など行うのは

当然である。見学者やマスコミへの対応など、行政として適切な対応をとることは言うまでもなく、今後においても一層の説明責任が求められることは必至である。その積み重ねが、遺跡を支える人材の育成に大きく貢献することは間違いない。保存・活用には様々な視点があるが発掘調査やその後の調査研究に限って私見を述べた。

4　終わりに

総括報告書の刊行にあたって、すでに刊行されている第１分冊を事実記載とすれば本編はその考察編とも言うべきものである。本編は発掘調査担当者や整理作業担当者、円筒土器文化に造詣の深い研究者、三内丸山遺跡発掘調査委員会委員らの執筆によるものである。執筆内容において執筆者自身がこれまでの発掘調査や研究成果を踏まえ、自身の見解を明確に述べているため、細部では意見や見解の相違、用語等の齟齬が見られるものの、現時点での最新の成果を明らかにしたものであり、今後の発掘調査の進展によって評価が変わることもあり得ることを最後にお断りしておきたい。　（岡田）

引用･参考文献

例言
小山正忠・竹原秀雄　2006 『新版　標準土色帖』日本色研事業株式会社
國木田大　2012 「三内丸山遺跡の盛土の形成過程とその場所性の解明」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－15－』青森県教育委員会
小林謙一　2005 「付着炭化物のAMS炭素14年代測定による円筒土器の年代研究」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－８－』青森県教育委員会
小林謙一・坂本稔・西本豊弘・松崎浩之　2008 「三内丸山遺跡出土試料の14C年代測定（2006年度）」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－11－』青森県教育委員会
辻誠一郎　2002 「第Ⅵ章　第４節　年代測定」『青森県史　別編　三内丸山遺跡』青森県
辻誠一郎　2006 「三内丸山遺跡の層序と編年」『植生史研究』特別第２号　三内丸山遺跡の生態系史
辻誠一郎・中村俊夫　2001 「縄文時代の高精度編年：三内丸山遺跡の年代測定」『第四紀研究』第40巻　第6号
山内清男　1979 『日本先史土器の縄紋』先史考古学会

第１節　遺構　第１項　建物跡　１竪穴建物跡
南茅部町教育委員会　2002 『大船Ｃ遺跡　ハマナス野遺跡vol.ⅩⅦ』

第１節　遺構　第１項　建物跡　２掘立柱建物跡
青森県考古学会　2007 『津軽・西海岸の考古学』平成19年度青森県考古学会秋季大会資料集
阿部昭典　2010 「新潟県における縄文後･晩期の集落構造の複雑化」『正面ヶ原Ａ遺跡から垣間見る縄文社会』
阿部昭典　2012 「縄文時代後期初頭における集落構造･住居形態の変容と地域間関係」『三十稲場式土器文化の世界』
石井 寛　1998 「縄文集落と掘立柱建物跡」『先史日本の住居とその周辺』奈良国立文化財研究所シンポジウム報告
石井 寛　2007 「後期集落における二つの住居系列－柄鏡形住居址系列と掘立柱建物跡系列－」『縄文時代』18
石井 寛　2008 「掘立柱建物跡から観た後晩期集落址」『縄文時代』19
小林圭一　2009 「やまがたの縄文時代前期の集落－やまがた前期縄文文化の考古学－」『じょうもん天地人』
小林圭一　2012 「富並川流域における縄文時代の遺跡動態－西海淵・川口・宮ノ前遺跡の検討を通して－」『東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究　研究成果報告書』Ⅰ　東北芸術工科大学東北文化研究センター
富樫康時　2003 「掘立柱建物考（縄文時代）―秋田県の例を中心に―」秋田県立博物館研究報告第28号

第１節　遺構　第２項　土坑
青森県　2017 『青森県史　資料編　考古１　旧石器　縄文草創期～中期』
秋田県教育委員会　1979 『梨ノ木塚遺跡発掘調査報告書』
小林圭一　2014 「吹浦遺跡出土の縄文土器」『東北芸術工科大学東北文化研究センター紀要』13
坂口　隆　2003 『縄文時代貯蔵穴の研究』アム・プロモーション
杉野森淳子　2017 「貯蔵穴」『青森県史　資料編　考古１　旧石器　縄文草創期～中期』青森県
函館市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団編　2009 『函館市臼尻小学校遺跡・豊崎Ｃ・Ｄ・Ｆ・Ｏ遺跡』函館市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団第５輯
山田吾郎　2001 「北海道南部渡島半島の遺跡から出土する植物遺体」『南北海道考古学情報交換会20周年記念論集　渡島半島の考古学』南北海道考古学情報交換会20周年記念論集作成実行委員会

第１節　遺構　第３項　墓（土坑墓　環状配石墓　埋設土器）
青森県教育委員会　1977 『近野遺跡発掘調査報告書(Ⅲ)　三内丸山遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第33集
青森県教育委員会　1994 『三内丸山(２)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第157集
青森県教育委員会　1998 『三内丸山遺跡ＸⅠ』青森県埋蔵文化財調査報告書第251集
青森県教育委員会　2003 『三内丸山遺跡22』青森県埋蔵文化財調査報告書第362集

第１節　遺構　第４項　捨て場（縄文時代前期）
大野憲司　1990 「狐平遺跡について」　『秋田県埋文センター研究紀要』第５号
斉藤慶史　2017 「第Ⅱ部第３章第１節第５項　捨て場」『青森県史　資料編　考古１』
佐藤達夫　1984 「青森県北津軽郡深郷田遺跡発掘概報」『東アジアの先史文化と日本』
「三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究」会　2011 『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究－資料集－』
茅野嘉雄　2017 「第Ⅱ部第２章第３節　39　畑内遺跡」『青森県史　資料編　考古１』
辻誠一郎　2002 「第Ⅴ章　第１節　人と自然の環境史」『青森県史　別編　三内丸山遺跡』

第１節　遺構　第５項　盛土（縄文時代中期）
安昭炫　2013 「三内丸山遺跡における盛土遺構の形成プロセスの解明」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-16-』
阿部友寿　2003 「縄文後晩期における遺構更新と「記憶」－後晩期墓壙と配石の重複関係について－」『神奈川考古』39
阿部友寿　2004 「祖先祭祀・再生観の語られ方　－配石遺構・墓制との関連において－」『神奈川考古』40
宇田川洋　1985 「アイヌ文化期の送り場遺跡」『考古学雑誌』70-４
岡村道雄　1996 「縄文文化の見直し－教科書記載を引用して」『歴史と地理』490
岡村道雄　2010 「縄文時代「盛土遺構」研究のために」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究　－予稿集－』三内丸山遺跡など盛土遺構の研究会
影浦覚　2014 「福島町館崎遺跡」『北海道考古学会2014年度研究大会　盛土遺構を掘る　予稿集』
國木田大　2012a 「三内丸山遺跡の盛土の形成過程とその場所性の解明」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-15-』
國木田大　2012b 「遺跡における層序の年代決定」『考古学ジャーナル』632
河野広道　1935 「貝塚人骨の謎とアイヌのイオマンテ」『人類学雑誌』50-４
小林克ほか　2011 『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究　－資料集－』三内丸山遺跡など盛土遺構の研究会
小林克　2011 「三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-14-』
小林克　2012 「三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究－その２」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-15-』
齋藤岳　2015 「三内丸山遺跡南盛土の剥片・砕片集中地点の石器について」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-18-』
佐々木由香　2013 「縄文時代のマメ類利用の研究－三内丸山遺跡を中心にして－」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-16-』
鈴木克彦　1975 「円筒土器文化における土器の廃棄－円筒土器の特有な出土情況について－」『考古学ジャーナル』111
谷口康浩　2008 「コードとしての祭祀・儀礼－行為の再現性と反復性－」『考古学ジャーナル』578
辻本裕也　2012 「三内丸山遺跡西盛土の層相解析」『三内丸山遺跡39』青森県埋蔵文化財調査報告書第520集
辻本裕也　2014 「土壌分析からみた盛土遺構」『北海道考古学会2014年度研究大会　盛土遺構を掘る　予稿集』
福井淳一　2017 「総括」『福島町 館崎遺跡』(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第333集　(公財)北海道埋蔵文化財センター
吉川純子　2012 「三内丸山遺跡西盛土より出土した大型植物化石」『三内丸山遺跡39』青森県埋蔵文化財調査報告書第520集

第２節　遺物　第１項　前期の土器（円筒下層式土器）
松山力・木村鐵次郎　1997 「第５章第１節畑内遺跡における中掘浮石層について」『畑内遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第211集
星雅之・茅野嘉雄　2006 「十和田中掘テフラからみた円筒下層ａ式土器成立期の土器様相」『植生史研究』特別第２号　三内丸山遺跡の生態史
三宅徹也　1989 「円筒土器下層様式」『縄文土器大観１』小学館

第２節　遺物　第２項　中期の土器（円筒上層式土器と大木式土器）
江坂輝彌　　1970 『石神遺跡』ニューサイエンス社
大島直行　1976 「円筒土器上層式土器の認識に関わる２・３の問題」『北海道考古学』12
小笠原　雅行　2001 「土器」『青森県史 別編三内丸山遺跡』

小笠原　雅行　2007 「青森市周辺の縄文時代中期後半の土器様相－円筒上層ｅ式から榎林式へ－」『村越潔先生喜寿記念論集』
小笠原　雅行　2008 「円筒上層式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
小笠原　雅行　2017 「土器の変遷（前期中葉から中期）」『青森県史　資料編考古１』
小保内　裕之　2008 「陸奥大木系土器（榎林式土器、最花式土器、大木10式併行土器）」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
中野 幸大　2008 「大木７ａ～８ｂ式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
三宅徹也　1978 「円筒土器の概念とその崩壊」『青森県立郷土館研究年報』３
三宅徹也　1981 「円筒土器」『縄文文化の研究』３　雄山閣
三宅徹也　1989 「円筒上層様式」『縄文土器大観』１　小学館
村越 潔　1974 『円筒土器文化』雄山閣

第２節　遺物　第３項　石器
青野友哉　1998 「北海道式石冠の製作工程について」『国指定史跡　北黄金貝塚発掘調査報告書―水場遺構の調査―』伊達市教育委員会
青森県　2017 『青森県史　資料編　考古１　旧石器　縄文草創期～中期』
岩田安之　2010 「明戸遺跡における円筒下層ｂ～ｄ式土器に伴う石鏃」『明戸遺跡・高屋遺跡』青森県教育委員会
上條信彦　2010 「円筒土器文化圏における食料加工技術の研究－礫石器の使用痕分析および残存デンプン分析を中心に－」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－13－』青森県教育委員会
上條信彦　2014 「「扁平石器」の形態的分布からみた円筒土器文化圏の動態」青森県考古学第22号
上條信彦　2015 『縄文時代における脱穀・粉砕技術の研究』六一書房
北の縄文研究会　2012 『北の縄文『円筒土器文化の世界』―三内丸山遺跡からの視点―』
小島朋夏　1999 「北海道式石冠の分布とその意義」北海道考古学第35輯
斎藤岳　1998 「石器」『三内丸山遺跡Ⅸ　第二分冊』青森県教育委員会
齋藤岳　2000 「三内丸山遺跡の北海道式石冠について」『史跡　三内丸山遺跡　年報－３－』青森県教育委員会
斎藤岳　2003 「三内丸山遺跡第六鉄塔地区の石器組成と抉入扁平磨製石器の使用法について」『史跡三内丸山遺跡　年報―６―』
齋藤岳　2010 「青森県内出土例を中心とした異形石槍について」青森県考古学第18号
齋藤岳　2014 「石器の変化から見た縄文時代中期末の北東北・北海道について」研究紀要第19号　青森県埋蔵文化財調査センター
齋藤岳　2018 「円筒土器文化の石器群の成立と半円状扁平打製石器・北海道式石冠」『研究紀要第23号』青森県埋蔵文化財調査センター
酒井秀治　2017 「石器について」『木古内町　大平遺跡（３）』北海道埋蔵文化財センター
三内丸山保存活用推進室　2016 「円筒土器文化総合研究データベース作成」『史跡三内丸山遺跡　年報－19－』
髙橋哲　2013 「青森県の石器組成について－石器の組み合わせについて－」『青森県考古学』第21号
立田理　2014 「石器石材について」（公財）北海道埋蔵文化財センター2014『木古内町　釜谷8遺跡』
豊原熙司・澤田健　1991 「北海道式石冠の新資料」北方探究第１号　北方懇話会
沼宮内洋一郎　1998 「半円状扁平打製石器の機能面について」『桜峯（１）遺跡』193～197青森市教育委員会
長谷部言人　1927 「円筒土器文化」『人類学雑誌』42-１　東京人類学会
羽生淳子　2005 「ジェンダー考古学から見た縄文土偶と文化的景観」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－８－』
福井淳一　2017 「館崎遺跡の骨角器と動物遺存体」『福島町　館崎遺跡』（公財）北海道埋蔵文化財センター
松下亘　1984 「北海道における擦切技法について―石斧製作からのアプローチ―」『河野広道博士没後二十周年記念論文集』河野広道博士没後二十周年記念論文集刊行会
南茅部町埋蔵文化財調査団1995『八木Ａ遺跡Ⅱ・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団報告第５輯
三宅徹也　1984 「石器製作について」『和野前山遺跡』青森県教育委員会
山田悟郎　2001 「北海道南部渡島半島の遺跡から出土する植物遺体」『南北海道考古学情報交換会20周年記念論集　渡島半島の考古学』（編集・発行　南北海道考古学情報交換会20周年記念論集作成実行委員会

第２節　遺物　第４項　土偶と岩偶
稲野裕介　1997 「円筒土器に伴う岩偶（２）」『土偶研究の地平』１
稲野裕介　1998 「北上川中流域における板状Ｏ脚土偶とそれ以外の形態について」『北方の考古学 野村崇先生還暦記念論集』
稲野裕介　1999 「円筒土器に伴う岩偶（３）」『北上市立埋蔵文化財センター紀要』１
長沼孝　1999 「北海道の土偶」『土偶研究の地平』３
小笠原雅行　1999 「円筒土器文化圏における前期の土偶について　―三内丸山遺跡の事例を中心に－」『土偶研究の地平』３
稲野裕介　2005 「円筒土器に伴う岩偶 ―三内丸山遺跡の資料を中心に―」『特別史跡三内丸山遺跡年報-8-』
藤沼邦彦　1992 「宮城県の土偶」『国立歴史民俗博物館研究報告』37
稲野裕介　1993 「円筒土器に伴う岩偶（１）」『考古学ジャーナル』362
鈴木克彦　1985 「土偶の研究（Ⅱ）―円筒土器に伴う土偶―」『日高見国』
羽生淳子　2005 「ジェンダー考古学から見た縄文土偶と文化的景観」『特別史跡三内丸山遺跡年報-８-』
村越潔　1974 『円筒土器文化』雄山閣

第２節　遺物　第５項　土製品と石製品
阿部昭典2012 「縄文時代の心の考古学－景観論と「第二の道具」論－」『祭祀儀礼と景観の考古学』國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター
朝日新聞社1997 『三内丸山遺跡と北の縄文世界　アサヒグラフ別冊』
岩田安之　2012 「三内丸山遺跡のミニチュア土器に関する予察」『特別史跡三内丸山遺跡年報-15-』
岩田安之　2017 「ミニチュア化された模倣品－三内丸山遺跡の棒状土製品を中心として－『特別史跡　三内丸山遺跡年報-20-』
江坂輝弥1965 「青竜刀形石器考」『史学』第38巻第１号
小島朋夏　2005 「縄文時代における軽石模造品について－北海道南西部を中心として－」『葛西勵先生還暦記念論文集　北奥の考古学』
鈴木素行　2007 「石棒」『縄文時代の考古学11　心と信仰』同成社
茅野嘉雄　2013 「三内丸山遺跡の石刀類・石棒について」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-16-』
富樫泰時　1983 「青竜刀形石器」『縄文文化の研究９　縄文人の精神文化』雄山閣
西脇対名夫　2007 「石冠とその類品」『縄文時代の考古学11心と信仰』同成社
西脇対名夫　2011 「岩内町東山Ⅰ遺跡出土の側縁有溝石器」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-14-』
野村崇　1983 「石剣・石刀」『縄文文化の研究９　縄文人の精神文化』雄山閣
福田友之　2000 「津軽海峡とサメの歯－本州北辺地域出土のサメの歯をめぐって－」『村越潔先生古稀記念論文集』弘前大学教育学部考古学研究室OB会
福田友之　2004 「津軽海峡域における先史ヒスイ文化」『環日本海の玉文化の始源と展開』敬和学園大学人文社会学研究所
福田友之　2004 「青森県出土の琥珀について」『向田（18）遺跡』野辺地町文化財調査報告書第14集　野辺地町教育委員会
福田友之　2014 「５津軽海峡域における先史ヒスイ文化」『津軽海峡域の先史文化研究』六一書房
福田友之　2014 「６青森県出土の琥珀」『津軽海峡域の先史文化研究』六一書房
山本暉久　1983 「石棒」『縄文文化の研究９　縄文人の精神文化』雄山閣

第２節　遺物　第６項　骨角器
音喜多富寿　1968 「骨角製釣針の一般的形式と「鹿角製長軸棒状釣針」の対比」『うとう』70
葛城和穂　2002 「骨角器」『青森県史　別編　三内丸山遺跡』青森県
金子浩昌・橘善光・奈良正義　1983 「最花貝塚第３次調査報告」『むつ市文化財調査報告第９集』
斉藤慶吏　2013 「第６鉄塔地区から出土した骨角器の製作残滓と出土獣骨の部位別組成　－骨角器素材における部位の選択性に関する検討－」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－16－』
斉藤慶吏　2016 「津軽海峡圏の骨角器　－円筒土器文化期の骨角器製作技術基盤を中心に－」『一般社団法人　日本考古学協会2016年度弘前大会　第Ⅰ分科会　津軽海峡圏の縄文文化 研究報告資料集』
澤浦亮平・吉永亜紀子・佐藤孝雄　2017 「最花貝塚の鳥獣類遺体と骨角器類　－同志社大学所蔵「酒詰コレクション」の内容－」『同志社大学歴史資料館館報』20
伊達市噴火湾文化研究所　2013 『ＫＩＴＡＫＯＧＡＮＥ』

西本豊弘・新美倫子・大谷茂之　2014 「北海道の骨角貝製品」『日本考古学協会2014年度　伊達大会　研究発表資料集』
丹羽百合子　1983 「解体・分配・調理」『縄文文化の研究２　生業』雄山閣
渡辺誠　1973 『縄文時代の漁業』雄山閣

第２節　遺物　第７項　漆製品
岡村道雄　2010 『ものが語る歴史20　縄文の漆』同成社
国立歴史民俗博物館　2014 『縄文時代の人と植物の関係史』国立歴史民俗博物館研究報告第187集
千葉市立郷土博物館　2012 『平成24年度特別展　漆－その歴史と文化－』
能城修一・鈴木三男　2004 「日本には縄文時代前期以降ウルシが生育した」『植生史研究』第12巻第１号
佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫編　1989 『日本の野生植物　木本Ⅱ』平凡社
吉川純子・伊藤由美子　2006 「縄文時代東北地方北部のウルシ利用の調査」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－９－』
吉川昌伸　2006 「ウルシ花粉の同定と青森県における縄文時代前期頃の産状」『植生史研究』第14巻第１号
四柳嘉章　2006 『ものと人間の文化史131-Ⅰ　漆Ⅰ』法政大学出版局
ウルシ属（表）（青森）
吉川純子・伊藤由美子　2006 「縄文時代東北地方北部のウルシ利用の調査」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－９－』
吉川昌伸　2006 「ウルシ花粉の同定と青森県における縄文時代前期頃の産状」『植生史研究』第14巻第1号
漆液容器（表）
赤沼英男　2004 「円筒土器文化圏における石器ならびに土器表面加工技術に関する研究－三内丸山および周辺遺跡を中心として－」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－７－』
岡村道雄　2010 「三内丸山など北日本縄文遺跡の漆文化」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－13－』

第３節　交流・交易
合地信生　2004 「三内丸山遺跡出土磨製石斧の産地について」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－７－』
柴正敏・諸星哲也　2015 「青森県埋蔵文化財調査センターにおける石材標本作製の意義」『研究紀要』第20号　青森県埋蔵文化財調査センター
杉野森淳子　2014 「青森県埋蔵文化財調査センターにおける石材標本作製」『研究紀要』第19号　青森県埋蔵文化財調査センター
杉原重夫・金成太郎・杉野森淳子　2008 「青森県出土黒曜石製遺物の産地推定」『研究紀要』第13号　青森県埋蔵文化財調査センター
杉原重夫・金成太郎　2009 「三内丸山遺跡で出土した霧ヶ峰産黒曜石製遺物」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－12－』
中村由克　2017 「北陸系石材の三内丸山遺跡への波及の研究」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－20－』
西本豊弘　1999 「ST639谷の第Ⅳ層・第Ⅴ層から出土した動物遺体について　池内遺跡の縄文時代の動物遺体」『池内遺跡　遺物・資料編』秋田県教育委員会
福井淳一　2017 「館崎遺跡出土の長野・霧ヶ峰産黒曜石製石鏃」『福島町　館崎遺跡』（公財）北海道埋蔵文化財センター
福田友之　2014 『津軽海峡域の先史文化研究』六一書房
小笠原正明・阿部千春　2007 「天然アスファルトの利用と供給」『縄文時代の考古学６　ものづくり』同成社
岡村道雄　1997 「接着剤―アスファルトの利用と交易」『ここまでわかった日本の先史時代』角川書店
岡村道雄　2012 「縄文文化の領域設定に関する諸問題」『北の縄文「円筒土器文化の世界」～三内丸山遺跡からの視点』北の縄文研究会
岡村道雄　2014 「縄文時代以来のアスファルト採取、精製、流通と利用」『新潟考古25』新潟県考古学会
杉野森淳子　2017 「青森県におけるアスファルト利用」『青森県立郷土館研究紀要　第41号』青森県立郷土館
福田友之　2000 「本州北辺地域における先史アスファルト利用」『研究紀要』５　青森県埋蔵文化財調査センター
福田友之　2014 「付章11 本州北辺地域における先史アスファルト利用」『津軽海峡域の先史文化研究』六一書房
福田友之　2004 「青森県出土の琥珀について」『向田(18)遺跡』野辺地町教育委員会

第４節　生業　第１項　採集
青森県　2017 『青森県史　資料編　考古１　旧石器　縄文草創期～中期』
小畑弘己　2016 『タネをまく縄文人　最新科学が覆す農耕の起源』167頁　吉川弘文館
小畑弘己・真邉彩　2014 「三内丸山遺跡北盛土出土土器の圧痕調査の成果とその意義」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-17-』
大島直行　1996 「北海道人の古人骨における齲歯頻度の時代的推移」『人類学雑誌』104-５　日本人類学会
上條信彦　2010 「円筒土器文化圏における食料加工技術の研究－礫石器の使用痕分析および残存デンプン分析を中心に－」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－13－』
工藤雄一郎　2004 「縄文時代の木材利用に関する実験考古学的研究―東北大学川渡農場伐採実験―」植生史研究　第12巻　第１号
古代の森研究舎・能城修一・鈴木三男　2015 「第10節　北の谷　６．自然科学分析（４）北の谷地区から出土した木材の樹種」『三内丸山遺跡42』青森県教育委員会
小林和貴・佐々木由香・能城修一・鈴木三男　2015 「三内丸山遺跡編紐製品の等の素材植物」『三内丸山遺跡42』青森県教育委員会
齋藤岳　2014 「石器の変化から見た縄文時代中期末の北東北・北海道について」研究紀要第19号　青森県埋蔵文化財調査センター
酒井秀治　2017 「石器について」『木古内町　大平遺跡（３）』北海道埋蔵文化財センター
佐々木由香・能城修一　2004 「第12節-２　岩渡小谷（４）遺跡出土の樹種と木取りからみる森林資源利用」『岩渡小谷（４）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第371集
佐藤洋一郎　1998 「三内丸山遺跡第６鉄塔地区出土のクリのＤＮＡ分析」『三内丸山遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第249集
渋谷綾子　2010 「石器残存デンプンからみた三内丸山遺跡の植物利用の変遷」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報－13－』
杉野森淳子　2017 「第Ⅱ部第３章第１節遺構第３項　貯蔵穴」『青森県史　資料編　考古１　旧石器　縄文草創期～中期』青森県
新美倫子　2009 「クリ」『縄文時代の考古学３　大地と森の中で』同成社
能城修一・鈴木三男　1998 「三内丸山遺跡第６鉄塔地区出土木材の樹種」『三内丸山遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第249集
藤澤珠織　2015 「北の谷出土人骨の形質分析について」『三内丸山遺跡42』青森県埋蔵文化財調査報告書第557集
山田悟郎　1993 「北海道の遺跡から出土した植物遺体について」『古代文化』第45巻４号
山田悟郎・柴内佐知子　1997 「北海道の縄文時代遺跡から出土した堅果類－クリについて」『北海道開拓記念館研究紀要』第25号　北海道開拓記念館
吉川純子　2010 「三内丸山遺跡南盛土より出土した大型植物化石」『特別史跡　三内丸山遺跡　年報-13-』
吉川昌伸　2011 「クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ分布状況」『植生史研究』　18-２
吉川昌伸・鈴木茂・辻誠一郎・後藤香奈子・村田泰輔　2006 「三内丸山遺跡の植生史と人の活動」『植生史研究』特別第２号　三内丸山遺跡の生態系史
吉川昌伸・吉川純子（古代の森研究舎）　2008 「第３節　三内丸山（９）遺跡の植生史と沢内の堆積環境」『三内丸山（９）遺跡Ⅱ』　青森県埋蔵文化財調査報告書第448集
吉崎昌一　1992 「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』355号　ニューサイエンス社
南川雅男　2015 「北の谷出土人骨の同位体分析と食性分析について」『三内丸山遺跡42』青森県埋蔵文化財調査報告書第557集

第４節　生業　第２項　漁撈
赤沢威　1969 「縄文貝塚産魚類の体長組成並びにその先史漁撈学的意味-縄文貝塚民の漁撈活動の復源に関する一試論」『人類学雑誌』77-４
秋道智彌　1995 『なわばりの文化史』小学館
阿部明義　2007 「動物遺存体」『白老町虎杖浜２遺跡（３）』（財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書第241集
江坂輝彌　1955 「青森県女館貝塚発掘調査報告」『石器時代』２
江坂輝彌　1956 「十日市貝塚群出土の鳥獣魚骨から観た縄文文化の食料資源」『奥南史苑』１
江坂輝彌　1963 「青森県下北郡女館貝塚」『日本考古学年報』６
江坂輝彌　1965 「青森県八戸市熊ノ林貝塚」『日本考古学年報』13
太田原・川口潤　2002 「縄文時代のマダラ漁　－マダラ漁から探る縄文人の技術と知識－」『海と考古学とロマン』市川金丸先生古稀を祝う会
金子浩昌　1975 「第８節　中の平遺跡出土の動物骨」『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第25集
金子浩昌　1976 「植苗、柳館両貝塚出土の脊椎動物遺存体について」『植苗貝塚特集　～自然遺物編～』苫小牧市史編さん別冊４　苫小牧市史編さん室
金子浩昌　1979 「萱刈沢貝塚出土の動物遺存体と骨牙製品」『萱刈沢貝塚』八竜町教育委員会
金子浩昌　2002 「苫小牧市静川22遺跡出土の動物遺体」『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅸ　－苫小牧市静川22遺跡発掘調査報告書－』苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
熊谷賢　2008 「12　力持遺跡出土動物遺存体について」『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集
黒住耐二・黒澤一男　2006 「東道ノ上（３）遺跡から得られた微小陸産貝類遺体」『東道ノ上（３）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書　第424集

小林和彦　1989 「白座遺跡から出土した動物遺存体」『白座遺跡・野場(３)遺跡発掘調査報告書』階上町教育委員会
小林和彦　1992 「動物遺存体」『小川原湖周辺の貝塚 －三沢市山中(２)貝塚・天間林村二ツ森貝塚発掘調査報告－』青森県立郷土館
小林和彦　1992 「第３節　沢堀込遺跡C-25号土坑から出土した動物遺存体」『沢堀込遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第144集　青森県教育委員会
小林和彦　1997 「畑内遺跡西捨場出土の動物遺存体」『畑内遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第211集　青森県教育委員会
小林和彦　2001 「畑内遺跡から出土した動物遺存体」『畑内遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第308集　青森県教育委員会
小林和彦　2002 「自然科学的分析結果」『畑内遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第326集　青森県教育委員会
小林園子・西本豊弘　2004 「第６節　笹ノ沢(３)遺跡　SK-400出土貝類について」『笹ノ沢(３)遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第372集
斉藤慶吏　2006 「動物遺存体」『東道ノ上(３)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第424集　青森県教育委員会
斉藤慶吏　2007 「第９節　動物遺存体(魚類・貝類)について」『沢ノ黒遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書　第435集　青森県教育委員会
斉藤慶吏　2010 「第５節　動物遺存体と骨角器について」『明戸遺跡・高屋遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第488集　青森県教育委員会
澤田純明　2007 「第８節　焼骨片について」『沢ノ黒遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書　第435集　青森県教育委員会
高橋理・太子夕佳　2001「白老町虎杖浜２遺跡出土動物遺存体」『白老町虎杖浜２遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第158集
㈶北海道埋蔵文化財センター
滝沢幸長　1967 『八戸市大字十日市松ヶ崎貝塚』
滝沢幸長　1984 「八戸市大字鮫町における熊野林遺跡及び堀込遺跡について」『奥南』３
橘善光　1987 「万人堂貝塚発掘調査報告」『むつ市文化財調査報告第13集』
樋泉岳二　1998 「三内丸山遺跡第６鉄塔地区出土の魚類遺体(Ⅰ)」『三内丸山遺跡Ⅸ（第二分冊)』青森県埋蔵文化財調査報告書第249集　青森県教育委員会
樋泉岳二　2006 「魚貝類遺体群からみた三内丸山遺跡における水産資源利用とその古生態学的特徴」『植生史研究』特別第２号　三内丸山遺跡の生態系史
土肥研晶　2002 「動物遺体」『白老町虎杖浜２遺跡(２)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第172集　(財)北海道埋蔵文化財センター
名取武光・峰山巌　1957 「若生貝塚発掘報告」『北方文化研究報告』12
成田末五郎・佐藤達夫・佐藤仁　1965 「深郷田遺跡発掘概報」『中里町誌』
西本豊弘　1978 「動物遺存体」『白老町虎杖浜２遺跡　－1977年度試掘調査報告書－』
西本豊弘　1983 「「栄浜１遺跡出土の動物遺存体」『栄浜－八雲町栄浜１遺跡発掘調査報告書－』
西本豊弘　1984 「北海道の縄文・続縄文文化の狩猟と漁撈 －動物遺存体の分析を中心として－」『国立歴史民俗博物館研究報告』４
西本豊弘　1999 「第２節　ＳＴ639谷の第Ⅳ層・第Ⅴ層から出土した動物遺体について」『池内遺跡』秋田県文化財調査報告書第282集
西本豊弘　2013 「北黄金貝塚の動物遺存体」『ＫＩＴＡＫＯＧＡＮＥ』伊達市噴火湾文化研究所
西本豊弘　2015 「御所野遺跡の動物遺体の問題」『御所野遺跡Ⅴ―総括報告書―』一戸町教育委員会
西本豊弘・樋泉岳二・小林和彦　1995 「動物遺体」『木造町田小屋野貝塚　－岩木川流域の縄文前期の貝塚発掘調査報告書－』青森県立郷土館
西本豊弘・浪形早季子　2006 「４．御所野遺跡の骨角製品と焼骨について」『御所野遺跡Ⅲ』一戸町教育委員会
西本豊弘・新美倫子　1992 「コタン温泉遺跡出土の動物遺体」『コタン温泉遺跡』八雲町教育委員会
二本柳正一・渡辺兼庸　1959 「六ヶ所村周辺の円筒土器」『東奥文化』13
八戸市博物館　1988 『図録－青森県の貝塚』
八戸市立商業高等学校社会科研究会　1962 「八戸市種差熊ノ林貝塚発掘について」『奥南史苑』6
パリノ・サーヴェイ株式会社　2003 「第Ⅴ章　自然科学分析」『泊(１)遺跡Ⅱ』六ヶ所村教育委員会
パリノ・サーヴェイ株式会社　2015 「第４節　石神遺跡出土骨貝類の自然科学分析」『石神遺跡８』つがる市遺跡調査報告書８
福田友之　2012 『青森県の貝塚』北方新社
松崎哲也　2017 「動物資源利用からみた三陸地方南部の縄文時代前・中期の生業形態」『宮城考古学』19
宮坂光次　1930 「青森県是川村一王寺史前時代遺跡発掘調査報告」史前学雑誌　２－６
村越潔　1968 『岩木山』
吉田　格･直良信夫　1942 「青森県相内村オセドウ貝塚」『古代文化』13-２

第４節　生業　第３項　狩猟
阿部明義　2007 「動物遺存体」『白老町虎杖浜２遺跡(３)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第241集
阿部永 他　2005 『日本の哺乳類』東海大学出版会
伊藤良枝　1999 「房総における縄文時代の小型獣狩猟　－有吉北貝塚を中心に－」『動物考古学』13
犬飼哲夫・森樊須　1956 「北海道アイヌのアザラシ及びオットセイ狩り」『北方文化研究報告』11
牛沢百合子　1979 「動物遺存体」『大陽台貝塚』陸前高田市教育委員会
江坂輝彌　1955 「青森県女館貝塚発掘調査報告」『石器時代』２
江坂輝彌　1956 「十日市貝塚群出土の鳥獣魚骨から観た縄文文化の食料資源」『奥南史苑』1
江坂輝彌　1963 「青森県下北郡女館貝塚」『日本考古学年報』６
江坂輝彌　1965 「青森県八戸市熊ノ林貝塚」『日本考古学年報』13
金子浩昌　1975 「第８節　中の平遺跡出土の動物骨」『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第25集
金子浩昌　1976 「植苗、柳館両貝塚出土の脊椎動物遺存体について」『植苗貝塚特集　～自然遺物編～』苫小牧市史編さん別冊４　苫小牧市史編さん室
金子浩昌　1979 「萱刈沢貝塚出土の動物遺存体と骨牙製品」『萱刈沢貝塚』八竜町教育委員会
金子浩昌　1983 「自然遺物」『古屋敷貝塚Ⅰ』上北町教育委員会
金子浩昌　2002 「苫小牧市静川22遺跡出土の動物遺体」『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅸ　－苫小牧市静川22遺跡発掘調査報告書－』苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
金子浩昌・橘善光・奈良正義　1983 「最花貝塚第３次調査報告」『むつ市文化財調査報告第９集』むつ市教育委員会
金子浩昌・西本豊弘　1985 「北海道・本州東北におけるオットセイ猟の系譜」『季刊考古学』11
熊谷賢　2001 「狩猟具の貫入した動物遺存体」『考古学ジャーナル』468
熊谷賢　2008 「12　力持遺跡出土動物遺存体について」『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集
小林和彦　1989 「白座遺跡から出土した動物遺存体」『白座遺跡・野場(３)遺跡発掘調査報告書』階上町教育委員会
小林和彦　1992 「動物遺存体」『小川原湖周辺の貝塚　－三沢市山中(２)貝塚・天間林村二ツ森貝塚発掘調査報告－』青森県立郷土館
小林和彦　1994 「二ツ森貝塚から出土した犬骨」『二ツ森貝塚　平成５年度発掘調査報告書』天間林村文化財調査報告書第２集　天間林村教育委員会
小林和彦　1997 「畑内遺跡西捨場出土の動物遺存体」『畑内遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第211集　青森県教育委員会
小林和彦　2001 「畑内遺跡から出土した動物遺存体」『畑内遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第308集　青森県教育委員会
小林和彦　2002 「自然科学的分析結果」『畑内遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第326集　青森県教育委員会
小宮孟　2002 「青森県二ツ森貝塚のフラスコ状土坑底から出土した縄文犬骨の考古学的意味」『千葉県立中央博物館研究報告』7-2
斉藤慶吏　2006 「動物遺存体」『東道ノ上(３)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第424集　青森県教育委員会
斉藤慶吏　2007 「円筒土器文化圏における食料獲得活動の地域性　－東北町東道ノ上(3)遺跡出土動物遺存体の分析－」『考古学談叢』須藤隆先生退任記念論文集刊行会
斉藤慶吏　2015 「北の谷から出土した動物遺体」『三内丸山遺跡42』青森県埋蔵文化財調査報告書第557集　青森県教育委員会
澤田純明　2007 「第８節　焼骨片について」『沢ノ黒遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書　第435集　青森県教育委員会
高槻成紀　2006 『シカの生態誌』東京大学出版会
高橋理・太子夕佳　2001 「白老町虎杖浜２遺跡出土動物遺存体」『白老町虎杖浜２遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第158集　(財)北海道埋蔵文化財センター
高橋理　2001 「北海道におけるイノシシ」『縄文時代島嶼部イノシシに関する研究　平成11～12年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(２)）研究成果報告書　研究代表者　山崎京美』
田口尚　1994 「アイヌの木器とその源流」『季刊考古学』47
高橋憲太郎・三浦千秋　1995 「動物遺存体」『崎山貝塚』宮古市埋蔵文化財調査報告書44　宮古市教育委員会
滝沢幸長　1967 『八戸市大字十日市松ヶ崎貝塚』
滝沢幸長　1984 「八戸市大字鮫町における熊野林遺跡及び堀込遺跡について」『奥南』3
土肥研晶　2002 「動物遺体」『白老町虎杖浜２遺跡(２)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第172集　(財)北海道埋蔵文化財センター
名取武光・峰山巌　1957 「若生貝塚発掘報告」『北方文化研究報告』12
新美倫子　2010 「鳥獣類相の変遷」『縄文時代の考古学４　人と動物の関わり合い－食料資源と生業圏』同成社
西本豊弘　1978 「動物遺存体」『白老町虎杖浜２遺跡　－1977年度試掘調査報告書－』

西本豊弘　1983 「栄浜１遺跡出土の動物遺存体」『栄浜－八雲町栄浜１遺跡発掘調査報告書－』
西本豊弘　1984 「北海道の縄文・続縄文文化の狩猟と漁撈　－動物遺存体の分析を中心として－」『国立歴史民俗博物館研究報告』４
西本豊弘　1998 「三内丸山遺跡第６鉄塔地区出土の鳥類・哺乳類遺体」『三内丸山遺跡Ⅸ（第二分冊）』青森県埋蔵文化財調査報告書第249集　青森県教育委員会
西本豊弘　1999 「第２節　ＳＴ639谷の第Ⅳ層・第Ⅴ層から出土した動物遺体について」『池内遺跡』秋田県文化財調査報告書第282集　秋田県教育委員会
西本豊弘　2012 「縄文時代の狩猟活動の再検討」『考古学ジャーナル』625
西本豊弘　2013 「北黄金貝塚の動物遺存体」『ＫＩＴＡＫＯＧＡＮＥ』伊達市噴火湾文化研究所
西本豊弘・樋泉岳二・小林和彦　1995 「動物遺体」『木造町田小屋野貝塚　－岩木川流域の縄文前期の貝塚発掘調査報告書－』青森県立郷土館
西本豊弘・浪形早季子　2006 「４．御所野遺跡の骨角製品と焼骨について」『御所野遺跡Ⅲ』一戸町文化財調査報告書第53集　一戸町教育委員会
西本豊弘・新美倫子　1992 「コタン温泉遺跡出土の動物遺体」『コタン温泉遺跡』八雲町教育委員会
長谷川豊　1998 「縄文時代における狩猟犬の研究　―その機能的側面について－」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会
長谷川豊　2006 「縄文時代の多雪地域におけるシカ猟・イノシシ猟　－東北・北陸の資料集成とその基礎的検討－」『往還する考古学　近江貝塚研究会論集３』
八戸市博物館　1988 『図録－青森県の貝塚』
八戸市立商業高等学校社会科研究会　1962 「八戸市種差熊ノ林貝塚発掘について」『奥南史苑』６
パリノ・サーヴェイ株式会社　2003 「第Ⅴ章　自然科学分析」『泊（１）遺跡Ⅱ』六ヶ所村教育委員会
パリノ・サーヴェイ株式会社　2015 「第４節　石神遺跡出土骨貝類の自然科学分析」『石神遺跡８』つがる市遺跡調査報告書８
福井淳一　2017 「Ⅷ　館崎遺跡の動物遺存体」『福島町館崎遺跡』（公財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書第333集
福田友之　2012 『青森県の貝塚』北方新社
堀越正行　1977 「小竪穴考（４）」『史館』９
南川雅男　2001 「炭素・窒素同位体分析により復元した先史日本人の食生態」『国立歴史民俗博物館研究報告』86
南川雅男　2015 「北の谷出土人骨の同位体分析と食性分析について」『三内丸山遺跡42』青森県埋蔵文化財調査報告書第557集
宮坂光次　1930 「青森県是川村一王寺史前時代遺跡発掘調査報告」史前学雑誌　２－６
村越潔　1968 『岩木山』
吉田　格･直良信夫　1942 「青森県相内村オセドウ貝塚」『古代文化』13－２
米田穣　2016 「田小屋野貝塚出土人骨の炭素・窒素同位体分析と放射性炭素年代測定」『田小屋野貝塚　総括報告書』つがる市遺跡調査報告書９

第７節　総括
青森県教育委員会　1998 『三内丸山遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第249集
工藤大　1995 「第６章　考察」『木造町田小屋野貝塚』青森県立郷土館調査報告第35集　考古-10
辻誠一郎　2006 「三内丸山遺跡の生態史研究」『植生史研究』特別第２号　三内丸山遺跡の生態史
星雅之・茅野嘉雄　2006 「十和田中掫テフラからみた円筒下層ａ式土器成立期の土器様相」『植生史研究』特別第２号　三内丸山遺跡の生態史
三宅徹也　1989 「円筒土器下層様式」『縄文土器大観１』小学館

遺跡・出土地点一覧

青森県

赤坂遺跡	青森県教育委員会	2015 『赤坂遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第552集
明戸遺跡	十和田市教育委員会	1984 『明戸遺跡発掘調査報告書』十和田市埋蔵文化財発掘調査報告書第３集
	青森県教育委員会	2010 『明戸遺跡・高屋遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第488集
朝日山（２）遺跡	青森県教育委員会	2002 『朝日山（２）遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第325集
	青森県教育委員会	2003 『朝日山（２）遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第350集
	青森県教育委員会	2004 『朝日山（２）遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第369集
石江遺跡	青森県教育委員会	2008 『石江遺跡　三内沢部（３）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第458集
	青森市教育委員会	2011 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』青森市埋蔵文化財調査報告書第108集
	青森市教育委員会	2012 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅴ』青森市埋蔵文化財調査報告書第112集
石神遺跡	森田村教育委員会	1970 『石神遺跡』
	つがる市教育員会	2015 『石神遺跡８』つがる市遺跡調査報告書８
石倉下遺跡	黒石市教育委員会	2000 『築館遺跡・石倉下遺跡』黒石市埋蔵文化財調査報告・第16集
石手洗遺跡	八戸市教育委員会	1990 『八戸市内遺跡発掘調査報告書１　石手洗遺跡 田面木平（２）遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第36集
石持納屋遺跡	東通村教育委員会	1985 『石持納屋遺跡発掘調査報告書』
泉山遺跡	青森県教育委員会	1976 『泉山遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第31集
	青森県教育委員会	1995 『泉山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第181集
板留（２）遺跡	青森県教育委員会	1980 『板留（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第59集
一王寺（１）遺跡	八戸市教育委員会	2011 『市内遺跡発掘調査報告書28　一王寺（１）遺跡第14地点』八戸市埋蔵文化財調査報告書第134集
	金子浩昌　1980	「長七谷地貝塚出土の骨角製銛頭」『長七谷地貝塚遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第57集
一本松遺跡	深浦町教育委員会	1980 『一本松遺跡　第二次発掘調査報告書』
稲平遺跡	脇野沢村　1998	『青森県脇野沢村稲平遺跡（３分冊）』
稲山（１）遺跡	青森市教育委員会	2001 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』青森市埋蔵文化財調査報告書第56集
	青森市教育委員会	2002 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書第62集
	青森市教育委員会	2003 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』青森市埋蔵文化財調査報告書第66集
	青森市教育委員会	2004 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』青森市埋蔵文化財調査報告書第71集
	青森市教育委員会	2004 『稲山遺跡Ⅴ』青森市埋蔵文化財調査報告書第72集
岩渡小谷（３）遺跡	青森県教育委員会	2003 『岩渡小谷（３）･（４）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第352集
岩渡小谷（４）遺跡	青森県教育委員会	2003 『岩渡小谷（３）･（４）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第352集
	青森県教育委員会	2004 『岩渡小谷（４）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第371集
牛ヶ沢（４）遺跡	八戸市教育委員会	2001 『牛ヶ沢（４）遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第89集
	八戸市教育委員会	2004 『牛ヶ沢（４）遺跡Ⅲ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第104集
牛潟（１）遺跡	つがる市教育委員会	2010 『牛潟（１）遺跡５』つがる市遺跡調査報告書４
牛潟（２）遺跡	つがる市教育委員会	2009 『牛潟（２）遺跡３』つがる市遺跡調査報告書３
上野遺跡	青森県教育委員会	2010 『上野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第486集
大面（１）遺跡	青森県教育委員会	1980 『大面遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第55集
大平遺跡	青森県教育委員会	1980 『大平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第52集
大矢沢野田（１）遺跡	青森県教育委員会	1999 『青森県遺跡詳細分布調査報告書ＸⅠ』青森県埋蔵文化財調査報告書第267集
	青森県教育委員会	1999 『大矢沢野田（１）遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第270集
	青森市教育委員会	2002 『大矢沢野田（１）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第61集
オセドウ貝塚	渡辺誠　1973	『縄文時代の漁業』雄山閣
	市浦村教育委員会	1992 『オセドウ貝塚発掘調査概報』
尾上山（２）遺跡	青森県教育委員会	1991 『鬼沢猿沢・尾上山（２）･（３）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第135集
蟹沢（２）遺跡	青森県教育委員会	2001 『蟹沢（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第292集
上尾駮（１）遺跡	青森県教育委員会	1988 『上尾駮（１）遺跡C地区発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第113集
上野尻遺跡	青森県教育委員会	2003 『上野尻遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第353集
上蛇沢（２）遺跡	青森県教育委員会	1995 『上蛇沢（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第177集
川原平（１）遺跡	青森県教育委員会	2016 『川原平（１）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第565集
川原平（４）遺跡	青森県教育委員会	2013 『川原平（４）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第527集
	青森県教育委員会	2016 『川原平（４）遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第566集
川原平（６）遺跡	青森県教育委員会	2016 『川原平（６）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第567集

神原（２）遺跡	青森県教育委員会　2013 『神原（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第530集
熊ヶ平遺跡	青森県教育委員会　1995 『熊ヶ平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第180集
隈無（４）遺跡	青森県教育委員会　1997 『隈無（４）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第209集
隈無（６）遺跡	青森県教育委員会　1998 『隈無（１）遺跡　隈無（２）遺跡　隈無（６）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第237集
熊沢遺跡	青森県教育委員会　1978 『熊沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第38集
	青森市教育委員会　2000 『熊沢遺跡』青森市埋蔵文化財調査報告書第48集
熊ノ林遺跡	八戸市教育委員会　2002 『市内遺跡発掘調査報告書14』八戸市埋蔵文化財調査報告書第90集
幸畑（７）遺跡	青森県教育委員会　1990 『幸畑（７）遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第125集
駒袋（１）遺跡	五戸町教育委員会　2006 『駒袋（１）遺跡・駒袋（２）遺跡・幸神遺跡』
最花貝塚	金子浩昌・橘善光・奈良正義　1983 「最花貝塚第３次調査報告」『むつ市文化財調査報告第９集』
栄山（３）遺跡	青森県教育委員会　2001 『栄山（３）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第294集
桜峯（１）遺跡	青森市教育委員会　1998 『桜峯（１）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第36集
笹ノ沢（３）遺跡	青森県教育委員会　2001 『笹ノ沢（２）・（３）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第305集
	青森県教育委員会　2003 『笹ノ沢（３）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第346集
	青森県教育委員会　2004 『笹ノ沢（３）遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第372集
鮫漁場付近	渡辺誠　1973 『縄文時代の漁業』雄山閣
沢ノ黒遺跡	青森県教育委員会　2007 『沢ノ黒遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第435集
沢堀込遺跡	青森県教育委員会　1992 『沢ノ黒遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第144集
三内遺跡	青森県教育委員会　1978 『三内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第37集
	青森県教育委員会　2007 『三内遺跡Ⅱ・三内丸山（９）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第434集
三内丸山遺跡	青森県教育委員会　1996 『三内丸山遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第204集
	青森市教育委員会　1996 『三内丸山（２）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第28集
	青森県教育委員会　1996 『三内丸山遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第205集
	青森県教育委員会　1997 『三内丸山遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第230集
	青森県教育委員会　1998 『三内丸山遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第249集
	青森県教育委員会　2000 『三内丸山遺跡ⅩⅦ』青森県埋蔵文化財調査報告書第289集
	青森県教育委員会　2003 『三内丸山遺跡22』青森県埋蔵文化財調査報告書第362集
	青森県教育委員会　2015 『三内丸山遺跡42』青森県埋蔵文化財調査報告書第557集
	青森県教育委員会　2017 『三内丸山遺跡44総括報告書第１分冊』青森県埋蔵文化財調査報告書第588集
三内沢部（１）遺跡	青森県教育委員会　1978 『三内沢部遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第41集
三内沢部（３）遺跡	青森県教育委員会　2005 『三内沢部（３）遺跡　柴山（１）遺跡　洗平（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第390集
	青森県教育委員会　2008 『石江遺跡　三内沢部（３）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第458集
三内丸山（９）遺跡	青森県教育委員会　2007 『三内遺跡Ⅱ・三内丸山（９）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第434集
	青森県教育委員会　2008 『三内丸山（９）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第448集
三内丸山（５）遺跡	青森県教育委員会　1999 『三内丸山（５）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第269集
	青森県教育委員会　2004 『三内丸山（５）遺跡Ⅱ　近野遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第370集
三内丸山（６）遺跡	青森県教育委員会　2000 『三内丸山（６）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第279集
	青森県教育委員会　2001 『三内丸山（６）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第307集
	青森県教育委員会　2002 『三内丸山（６）遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第327集
	青森県教育委員会　2017 『三内丸山（６）遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第585集
三内霊園遺跡	青森市教育委員会　1962 『三内霊園遺跡調査概報』青森市の文化財１
重地遺跡	八戸市教育委員会　2002 『重地遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第95集
四戸橋（１）遺跡	青森市教育委員会　1983 『四戸橋遺跡発掘調査報告書』青森市の文化財10
四戸橋遺跡	碇ヶ関村教育委員会　1997 『四戸橋遺跡』碇ヶ関村文化財調査報告書第１集
	碇ヶ関村教育委員会　1998 『四戸橋遺跡（Ⅱ）』碇ヶ関村文化財調査報告書第２集
白浜海岸	渡辺誠　1973 『縄文時代の漁業』雄山閣
新城平岡（４）遺跡	青森市教育委員会　2012 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅴ』青森市埋蔵文化財調査報告書第112集
新田遺跡	青森県教育委員会　2006 『新田遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第410集
新町野遺跡	青森県教育委員会　1998 『新町野遺跡・野木遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第239集
	青森県教育委員会　2000 『新町野遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第275集
	青森市教育委員会　2006 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』青森市埋蔵文化財調査報告書第87集
	青森市教育委員会　2008 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』青森市埋蔵文化財調査報告書第98集
砂小瀬遺跡	青森県教育委員会　2009 『砂子瀬遺跡　水上（３）遺跡　水上（４）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第466集
砂沢平遺跡	青森県教育委員会　1980 『砂沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第53集
太師森遺跡	平賀町教育委員会　2005 『太師森遺跡発掘調査報告書』平賀町埋蔵文化財調査報告書第36集
	平川市教育委員会　2007 『太師森遺跡発掘調査報告書』平川市埋蔵文化財調査報告書第２集
田小屋野貝塚	青森県立郷土館　1995 『木造町田小屋野貝塚』青森県立郷土館調査報告第35集　考古-10
田代遺跡	青森県教育委員会　2006 『田代遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第413集
	青森県教育委員会　2011 『田代遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第506集
蓼内久保	東北町教育委員会　2008 『蓼内久保（１）遺跡』東北町埋蔵文化財調査報告書第17集
（苫米地）館野遺跡	青森県教育委員会　1989 『館野遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第119集
玉清水遺跡	青森市教育委員会　1971 『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』青森市の文化財６
近野遺跡	青森県教育委員会　1997 『近野遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第216集
	青森県教育委員会　2005 『近野遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第394集
	青森県教育委員会　2006 『近野遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第418集
	青森県教育委員会　2007 『近野遺跡Ⅹ』青森県埋蔵文化財調査報告書第432集
槻ノ木（１）遺跡	青森県教育委員会　1983 『松原遺跡・陣馬川原遺跡・槻ノ木遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第77集
	青森県教育委員会　1995 『槻ノ木（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第169集
津山遺跡	青森県教育委員会　1997 『津山遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第221集
独弧七面山遺跡	弘前市教育委員会　2001 『独狐七面山遺跡発掘調査報告書』
泊（１）遺跡	六カ所村教育委員会　2003 『泊（１）遺跡Ⅱ』六ヶ所村埋蔵文化財調査報告書第７集
富ノ沢（２）遺跡	青森県教育委員会　1991 『富ノ沢（２）遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第137集
	青森県教育委員会　1992 『富ノ沢（２）遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第143集
	青森県教育委員会　1993 『富ノ沢（２）遺跡Ⅵ・富ノ沢（３）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第147集
寅平遺跡	村越潔　1966 「青森県西津軽郡寅平遺跡」『日本考古学年報』14
中野（２）遺跡	三戸町教育委員会　2001 『中野（２）遺跡』三戸町埋蔵文化財調査報告書第２集
中の平遺跡	青森県教育委員会　1975 『中の平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第25集
鳴沢遺跡	青森県教育委員会　1992 『鳴沢遺跡　鶴喰（９）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第142集
西張平遺跡	青森県教育委員会　2006 『西張平遺跡（遺構編）』青森県埋蔵文化財調査報告書第416集
	青森県教育委員会　2007 『西張平遺跡Ⅱ（遺物編）』青森県埋蔵文化財調査報告書第436集
新田（１）遺跡	青森県教育委員会　2009 『新田（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第472集
新田（２）遺跡	青森県教育委員会　2009 『新田（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第471集
二枚橋（１）遺跡	青森県教育委員会　2017 『二枚橋（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第581集
猫又（２）遺跡	三沢市教育委員会　2011 『猫又（２）遺跡　遺構編１（住居跡）』三沢市埋蔵文化財調査報告書第25集

野木（１）遺跡	青森県教育委員会	1998 『新町野遺跡・野木遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第239集
	青森県教育委員会	2000 『野木遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第281集
	青森市教育委員会	2001 『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ　資料．写真図版編』青森市埋蔵文化財調査報告書第54集
野木和遺跡	青森市教育委員会	1970 『野木和遺跡発掘調査報告書』青森市の文化財５
野場遺跡（１）	階上町教育委員会	2001 『野場遺跡（１）発掘調査報告書』
野場（５）遺跡	青森県教育委員会	1993 『野場（５）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第150集
白座遺跡	階上町教育委員会	1989 『白座遺跡　野場遺跡（３）発掘調査報告書』
畑内遺跡	青森県教育委員会	1994 『畑内遺跡Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告書第161集
	青森県教育委員会	1995 『畑内遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第178集
	青森県教育委員会	1996 『畑内遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第187集
	青森県教育委員会	1999 『畑内遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第262集
	青森県教育委員会	2000 『畑内遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第276集
	青森県教育委員会	2001 『畑内遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第308集
	青森県教育委員会	2002 『畑内遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第326集
	青森県教育委員会	2003 『畑内遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第345集
八幡堂遺跡	岩本義雄	1973 「青竜刀形骨器」『貝塚』10
発茶沢（２）遺跡	青森県教育委員会	1981 『発茶沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第67集
花巻遺跡	黒石市教育委員会	1986 『花巻遺跡』黒石市埋蔵文化財調査報告・４
原子溜池（５）遺跡	五所川原市教育委員会	1997 『原子溜池（４）遺跡・原子溜池（５）遺跡』五所川原市埋蔵文化財調査報告書第20集
東道ノ上（３）遺跡	青森県教育委員会	2006 『東道ノ上（３）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第424集
二ツ森貝塚	天間林村教育委員会	1997 『二ツ森貝塚』天間林村文化財調査報告書第５集
	七戸町教育委員会	2007 『二ツ森貝塚－範囲確認調査報告書－』七戸町埋蔵文化財調査報告書第71集
二股（２）遺跡	青森県教育委員会	2007 『二股（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第437集
古屋敷貝塚	上北町教育委員会	1983 『上北町古屋敷貝塚・－遺物編（１）－』上北町文化財発掘調査報告書第１集
蛍沢遺跡	青森市蛍沢遺跡発掘調査団	1979 『蛍沢遺跡』
堀合（２）遺跡	平賀町教育委員会	1981 『平賀町堀合１号遺跡発掘調査報告書』平賀町埋蔵文化財報告書　第９集
孫内遺跡	青森市教育委員会	1973 『孫内遺跡発掘調査報告書』青森市の文化財８
松ヶ崎遺跡	八戸市教育委員会	1994 『八戸市内遺跡発掘調査報告書６（松ヶ崎遺跡）』八戸市埋蔵文化財調査報告書第60集
（西長根遺跡）	八戸市教育委員会	1995 『八戸市内遺跡発掘調査報告書7（西長根遺跡）』八戸市埋蔵文化財調査報告書第61集
	八戸市教育委員会	1996 『八戸市内遺跡発掘調査報告書８（松ヶ崎遺跡）』八戸市埋蔵文化財調査報告書第65集
	八戸市教育委員会	2000 『八戸市内遺跡発掘調査報告書12（西長根遺跡）』八戸市埋蔵文化財調査報告書第83集
	八戸市教育委員会	2001 『八戸市内遺跡発掘調査報告書13（松ヶ崎遺跡）』八戸市埋蔵文化財調査報告書第87集
	八戸市教育委員会	2002 『八戸市内遺跡発掘調査報告書14（松ヶ崎遺跡）』八戸市埋蔵文化財調査報告書第90集
水上（２）遺跡	青森県教育委員会	2017 『水上（２）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第575集
水上（３）遺跡	青森県教育委員会	2009 『砂子瀬遺跡　水上（３）遺跡　水上（４）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第466集
	青森県教育委員会	2013 『水上（２）遺跡Ⅱ　水上（３）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第528集
宮田館遺跡	青森県教育委員会	2007 『宮田館遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第429集
	青森県教育委員会	2009 『米山（２）遺跡Ⅵ 宮田館遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第473集
向田(18)遺跡	野辺地町教育委員会	2004 『向田(18)遺跡』野辺地町文化財調査報告書14集
餅ノ沢遺跡	青森県教育委員会	2000 『餅ノ沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第278集
矢倉遺跡	七戸町教育委員会	2002 『矢倉遺跡Ⅳ』七戸町埋蔵文化財発掘調査報告書36
弥次郎窪遺跡	青森県教育委員会	1998 『見立山（１）遺跡　弥次郎窪遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第238集
安田（２）遺跡	青森県教育委員会	1999 『安田（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第255集
山崎（１）遺跡	青森県教育委員会	1982 『今別町山崎遺跡（１）（２）（３）発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第68集
山田（２）遺跡	青森県教育委員会	2009 『山田（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第469集
	青森県教育委員会	2010 『山田（２）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第495集
	青森県教育委員会	2011 『山田（２）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第508集
山田（４）遺跡	青森県教育委員会	2010 『山田（４）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第484集
山吹（１）遺跡	青森市教育委員会	1991 『山吹（１）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第16集
山元（１）遺跡	青森県教育委員会	2005 『山元（１）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第395集
横内（１）遺跡	青森市教育委員会	1995 『横内遺跡・横内（２）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第24集
横内（２）遺跡	青森市教育委員会	1995 『横内遺跡・横内（２）遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第24集
涌館遺跡	青森県教育委員会	2012 『湧館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第521集

秋田県

池内遺跡	秋田県教育委員会	1997 『池内遺跡　遺構篇』秋田県文化財調査報告書第268集
	秋田県教育委員会	1999 『池内遺跡　遺物・資料編』秋田県文化財調査報告書第282集
上ノ山Ⅱ遺跡	秋田県教育委員会	1988 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ　―上ノ山Ⅰ遺跡・館野遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡―』秋田県文化財調査報告書第166集
漆下遺跡	秋田県教育委員会	2011 『漆下遺跡』秋田県文化財調査報告書第464集
狼穴２遺跡	秋田県教育委員会	2010 『狼穴Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第460集
太田遺跡	秋田県教育委員会	1991 『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅸ－太田遺跡－』秋田県文化財調査報告書第207集
大岱Ⅳ遺跡	秋田県教育委員会	1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書ⅩⅡ』秋田県文化財調査報告書第120集
大畑台遺跡	日本鉱業株式会社船川製油所	1979 『大畑台遺跡発掘調査報告書』
男神遺跡	大館市教育委員会	2008 『男神遺跡発掘調査報告書』大館市文化財調査報告書第１集
萱刈沢貝塚	八竜町教育委員会	1979 『萱刈沢貝塚』
烏野遺跡	二ツ井町教育委員会	1998 『烏野遺跡第７次発掘調査概報』二ツ井町埋蔵文化財調査報告書第７集
桐内沢遺跡	秋田県教育委員会	2002 『桐内沢遺跡　日廻岱A遺跡』秋田県文化財調査報告書第335集
桐内Ｃ遺跡	秋田県教育委員会	2000 『桐内Ｃ遺跡』秋田県文化財調査報告書第299集
黒倉Ｂ遺跡	田沢湖町教育委員会	1985 『黒倉Ｂ遺跡　－第１次発掘調査報告－』
小袋岱遺跡	秋田県教育委員会	1999 『小袋岱遺跡』秋田県文化財調査報告書第285集
坂ノ上Ｅ遺跡	秋田市教育委員会	1984 『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
坂ノ上Ｆ遺跡	秋田市教育委員会	1985 『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書』
杉沢台遺跡	秋田県教育委員会	1981 『杉沢台遺跡　竹生遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第83集
高野遺跡	秋田県教育委員会	2004 『高野遺跡』秋田県文化財調査報告書第372集
館下Ⅰ遺跡	秋田県教育委員会	1979 『館下Ⅰ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第62集
繋沢遺跡	秋田県教育委員会	2005 『繋沢遺跡』秋田県文化財調査報告書第399集
天戸森遺跡	鹿角市教育委員会	1984 『天戸森遺跡』鹿角市文化財調査資料26
堂ノ沢遺跡	秋田県教育委員会	2010 『堂ノ沢遺跡』秋田県文化財調査報告書第449集
根下戸道下遺跡	秋田県埋蔵文化財センター	2007 『根下戸道下遺跡（第２次）』秋田県文化財調査報告書第428集
長野岱Ⅰ遺跡	髙橋　学	1993 「森吉町長野岱Ⅰ遺跡採集の岩偶」『秋田考古学』42･43号合併号　秋田考古学協会
萩ノ台Ⅱ遺跡	秋田県教育委員会	1993 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ-萩ノ台Ⅱ遺跡-』　秋田県文化財調査報告書第236集
はりま館遺跡	秋田県教育委員会	1990 『はりま館遺跡発掘調査報告書（上巻）』秋田県文化財調査報告書第192集
深渡遺跡	秋田県教育委員会	2006 『深渡遺跡』秋田県文化財調査報告書第407集
二重鳥Ａ遺跡	北秋田市教育委員会	2006 『森吉Ｂ遺跡　二重鳥Ａ遺跡』北秋田市埋蔵文化財調査報告書第２集

二重鳥Ｃ遺跡　森吉町教育委員会　2003 『二重鳥Ｃ・Ｇ遺跡』
二重鳥Ｂ遺跡　北秋田市教育委員会　2009 『二重鳥Ｂ遺跡』北秋田市埋蔵文化財調査報告書第11集
本堂端遺跡　比内町教育委員会　1986 『本堂端遺跡』
松木台Ⅲ遺跡　秋田県教育委員会　2001 『松木台Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第326集
三ヶ田館遺跡　秋田県教育委員会　2007 『三ヶ田館跡』秋田県文化財調査報告書第417集
山館上ノ山遺跡　秋田県教育委員会　1988 『国道103号大館南バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－上ノ山Ⅰ遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第173集
和田Ⅲ遺跡　秋田県教育委員会　2003 『和田Ⅲ遺跡』秋田県文化財調査報告書第350集

岩手県
秋浦Ⅰ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2001 『秋浦１遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第346集
上里遺跡　(財)岩手県埋蔵文化財センターほか　1983 『上里遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第55集
上平Ⅱ遺跡　盛岡市教育委員会　1995 『上平遺跡群　猪去館・上平Ⅱ遺跡―平成４・５年度発掘調査概報―』
雲南遺跡　陸前高田市教育委員会　2006 『雲南遺跡』陸前高田市文化財調査報告書第26集
江刺家遺跡　(財)岩手県埋蔵文化財センター　1984 『江刺家遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第70集
江刺家Ⅳ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1998 『江刺家Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第277集
大館町遺跡　盛岡市教育委員会　1984 『大館遺跡群　大新町遺跡・大館町遺跡　昭和58年度発掘調査概報』
盛岡市教育委員会　1997 『大館遺跡群　大館町遺跡－平成６・７年度発掘調査概報－』
大鳥Ⅰ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1999 『大鳥Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第290集
大畑Ⅲ遺跡　(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2013 『大畑Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第606集
大日向Ⅱ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書　第２次～第５次調査』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第225集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1998 『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書　第6次～第８次調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集
叺屋敷Ⅰａ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1983 『叺屋敷Ⅰａ遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第61集
五庵Ⅰ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1986 『五庵Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第97集
御所野遺跡　一戸町教育委員会　1993 『御所野遺跡Ⅰ』一戸町文化財調査報告書第32集
一戸町教育委員会　2004 『御所野遺跡Ⅱ』一戸町文化財調査報告書第48集
一戸町教育委員会　2006 『御所野遺跡Ⅲ』一戸町文化財調査報告書第53集
一戸町教育委員会　2015 『御所野遺跡Ⅴ―総括報告書―』一戸町文化財調査報告書第70集
小日谷地ＩＢ遺跡　雫石町教育委員会　2013 『小日谷地ＩＢ遺跡発掘調査報告書(平成24年度)』雫石町埋蔵文化財調査報告書第13集
雫石町教育委員会　2016 『小日谷地ＩＢ遺跡発掘調査報告書(平成25～27年度)』雫石町埋蔵文化財調査報告書第14集
崎山貝塚　宮古市教育委員会　1995 『崎山貝塚―範囲確認調査報告書―』 宮古市埋蔵文化財調査報告書44
宮古市教育委員会　2009 『国指定史跡崎山貝塚　第Ⅳ期内容確認調査概報（骨角器篇）』宮古市埋蔵文化財調査報告書76
下中居Ⅰ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2011 『下中居Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第565集
新田Ⅱ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2011 『新田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第572集
大新町遺跡　盛岡市教育委員会　1984 『大館遺跡群　大新町遺跡・大館町遺跡　昭和58年度発掘調査概報』
盛岡市教育委員会　1997 『大館遺跡群　大館町遺跡－平成６・７年度発掘調査概報－』
田代遺跡　(財)岩手県埋蔵文化財センター　1982 『田代遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第41集
田代Ⅳ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995 『田代Ⅳ遺跡・田代Ⅵ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第223集
田中遺跡　一戸町教育委員会　2003 『田中遺跡』一戸町文化財調査報告書第46集
力持遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2008 『力持遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集
繋遺跡　盛岡市教育委員会　1996 『繋遺跡－平成７年度発掘調査概報－』
盛岡市教育委員会　1998 『繋遺跡－平成８年度発掘調査概報－』
外里遺跡　久慈市教育委員会　2011 『外里遺跡発掘調査報告書』久慈市埋蔵文化財調査報告書第１集
西田遺跡　岩手県教育委員会　1980 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書―Ⅶ―（西田遺跡)』岩手県文化財調査報告書第51集
長谷堂遺跡　岩手県教育委員会　2004 『長谷堂遺跡発掘調査報告書』岩手県文化財調査報告書第434集
早坂平遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004 『早坂平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第437集
平清水Ⅱ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2004 『平清水Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第449集
袈帯遺跡　岩手県教育委員会　2017 『袈帯遺跡発掘調査報告書』(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第662集
間館Ⅰ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1991 『間館Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第156集
松屋敷遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995 『松屋敷遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第224集
水吉Ⅵ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995 『水吉Ⅵ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財報告書第219集
横間Ⅱ遺跡　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1999 『横間Ⅱ遺跡・谷地田Ⅰ遺跡・有矢野遺跡・有矢野館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第303集

富山県
平岡遺跡　富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所　2015 『平岡遺跡発掘調査報告』富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第65集
北海道

青苗Ｂ遺跡　青柳文吉　1988 「北海道出土のひすい製玉について」『北海道考古学』第24輯
石狩紅葉山49号遺跡　石狩市教育委員会　2005 『石狩紅葉山49号遺跡発掘調査報告書』
石川１遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　1988 『石川１遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第45集
石倉１遺跡　(財)北海道埋蔵文化財調査センター　2010 『森町　石倉１遺跡(２)』
泉沢２遺跡　木古内町教育委員会　2003 『泉沢２遺跡Ａ地点』
上泊３遺跡　北海道埋蔵文化財センター　1985 『礼文島幌泊段丘の遺跡群：東上泊・上泊３・上泊４遺跡道々礼文島線特改１種工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
臼尻小学校遺跡　函館市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団　2006 『函館市　臼尻小学校遺跡』函館市教育委員会・函館市埋蔵文化財事業団発掘調査報告書第１輯
臼尻Ｂ遺跡　南茅部町教育委員会　1980 『臼尻Ｂ遺跡』
梅川４遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2010 『千歳市　梅川４遺跡(２)』(財)北海道埋蔵文化財センター第269集
大岱沢Ａ遺跡　上ノ国町教育委員会　1987 『大岱沢Ａ遺跡　』
大平遺跡　(公財)北海道埋蔵文化財センター　2016 『大平遺跡(２)－遺構編－』(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第321集
(公財)北海道埋蔵文化財センター　2017 『木古内町　大平遺跡(３)』(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第328集
大平４遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2011 『木古内町　大平遺跡・大平４遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第280集
大船Ｃ遺跡　南茅部町教育委員会　1998 『大船Ｃ遺跡－平成８年度発掘調査報告書－』
南茅部町教育委員会　2002 『大船Ｃ遺跡　ハマナス野遺跡vol.ⅩⅦ』
オバルベツ２遺跡　北海道文化財保護協会　1999 『オバルベツ２遺跡』北海道文化財保護協会調査報告書第11集
垣ノ島Ａ遺跡　南茅部町埋蔵文化財調査団　2004 『垣ノ島Ａ遺跡』南茅部町文化財調査団報告書　第11輯
函館市教育委員会　2007 『垣ノ島Ａ遺跡』
釜谷遺跡　木古内町教育委員会　1999 『釜谷遺跡Ⅱ　遺物編』
川汲遺跡　南茅部町埋蔵文化財調査団　1990 『川汲遺跡　川汲Ｄ遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団報告書　第１輯
桔梗２遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　1988 『函館市桔梗２遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第46集
函館市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団　2008 『桔梗２遺跡』函館市教育委員会　函館市埋蔵文化財事業団発掘調査報告

書第３輯
北黄金貝塚　伊達市教育委員会　1999 『北黄金貝塚発掘調査報告書―水場遺構の調査２―』伊達市教育委員会
倉知川右岸遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2004 『倉知川右岸遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第196集
ケノマイ２遺跡　日高町教育委員会　2015 『マウタサップ遺跡　ケノマイ２遺跡～日高自動車道門別厚賀道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査～』日高町埋蔵文化財調査報告書第３輯
虎状浜２遺跡　白老町教育委員会　1978
(財)北海道埋蔵文化財センター　2001 『白老町虎杖浜２遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第158集
(財)北海道埋蔵文化財センター　2002 『白老町虎杖浜２遺跡(２)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第172集
(財)北海道埋蔵文化財センター　2007 『白老町虎杖浜２遺跡(３)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第241集
(財)北海道埋蔵文化財センター　2008 『白老町虎杖浜２遺跡(４)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第256集
コタン温泉遺跡　八雲町教育委員会　1992 『コタン温泉遺跡』縄文時代集落と貝塚の調査 広域関連農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２
権現台場遺跡　函館市教育委員会　1980 『権現台場遺跡発掘調査概報』
函館市教育委員会　1981 『権現台場遺跡発掘調査報告書』
函館市教育委員会　1990 『権現台場遺跡』
サイベ沢遺跡　市立函館博物館　1958 『サイベ沢遺跡』
市立函館博物館　1972 『サイベ沢遺跡－函館郊外桔梗村サイベ沢遺跡発掘報告書－』
函館市教育委員会　1986 『サイベ沢遺跡Ⅱ』
函館市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団　2014 『サイベ沢遺跡』函館市教育委員会・函館市埋蔵文化財事業団発掘調査報告書第13輯
栄浜１遺跡　八雲町教育委員会　1983 『栄浜-八雲町栄浜１遺跡発掘調査報告書－』
八雲町教育委員会　1987 『栄浜１遺跡』
八雲市教育委員会　1995 『栄浜１遺跡－栄浜小学校校舎増築工事用地内埋蔵文化財長報告－』
八雲町教育委員会　1998 『栄浜１遺跡Ⅳ』
三次郎右岸遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2006 『森町三次郎川右岸遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第233集
静川22遺跡　苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター　2002 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅸ－苫小牧市静川22遺跡発掘調査報告書－』白坂遺跡　松前町教育委員会　1983 『白坂』
シラリカ２遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2000 『八雲町　シラリカ２遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第142集
陣川町遺跡　函館市教育委員会　1989 『陣川町遺跡　宅地造成工事に伴う緊急発掘調⊠報告書』
新道４遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　1987 『建川２・新道４遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第43集
寿都３遺跡　寿都町教育委員会　1979
寿都町教育委員会　1980 『寿都町文化財調査報告書２』
館崎遺跡　福島町教育委員会　1985 『館崎遺跡』
(公財)北海道埋蔵文化財センター　2017 『福島町館崎遺跡』(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第333集
館野２遺跡　(財) 北海道埋蔵文化財センター　2012 『北斗市　館野２遺跡Ａ地区・Ｂ地区』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第283集
(公財)北海道埋蔵文化財センター　2014 『北斗市　館野２遺跡C地区』(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第303集
館野６遺跡　(公財)北海道埋蔵文化財センター　2013 『北斗市　館野６遺跡(１)』(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第295集
(公財)北海道埋蔵文化財センター　2016 『北斗市　館野６遺跡(２)』(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第327集
戸井貝塚　戸井町教育委員会　1992 『戸井貝塚』
戸井町教育委員会　1994 『戸井貝塚Ⅳ』
砥石遺跡　奥尻町教育委員会　2002 『砥石遺跡』
豊原４遺跡　函館市教育委員会　2003 『函館市　豊原４遺跡』
鳴川右岸遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　1994 『七飯町　鳴川右岸遺跡』(財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書第87集
濁川左岸遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2003 『森町　濁川左岸遺跡－Ｂ地区－』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第190集
西島松３遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2008 『恵庭市　西島松３・西島松５遺跡(５)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第248集
函館空港第４地点　市立函館博物館　1977 『函館空港第４地点・中野遺跡』函館空港遺跡調査団　函館市教育委員会
花岡２遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2000 『長万部町　花岡2遺跡・花岡3遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第139集
浜町Ａ遺跡　戸井町教育委員会　1990 『浜町Ａ遺跡Ⅰ』
戸井町教育委員会　1991 『浜町Ａ遺跡Ⅱ』
ハマナス野遺跡　南茅部町教育委員会　1975 『ハマナス野遺跡調査報告書　-縄文時代前期の集落址』
南茅部町教育委員会　1976 『ハマナス野遺跡調査概報　-縄文時代前期の集落址』
南茅部町教育委員会　1981 『ハマナス野Ⅶ』
南茅部町教育委員会　1984 『ハマナス野Ⅹ』
南茅部町教育委員会　1990 『ハマナス野遺跡vol.ⅩⅡ』
南茅部町埋蔵文化財調査団　1991 『後駒Ｂ遺跡　ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財発掘調査団報告第２輯
南茅部町教育委員会　1992 『ハマナス野遺跡vol.XIV』
南茅部町埋蔵文化財調査団　1993 『八木Ａ遺跡・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団報告第４輯
南茅部町埋蔵文化財調査団　1995 『八木Ａ遺跡Ⅱ・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団報告第５輯
南茅部町教育委員会　2002 『大船Ｃ遺跡　ハマナス野遺跡vol.ⅩⅦ』
浜松３遺跡　八雲町教育委員会　2004 『浜松３遺跡』北海道縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３
東９線８遺跡　富良野市教育委員会　1999 『東９線８遺跡』富良野市文化財調査報告書第15輯
東山１遺跡　岩内町教育委員会　1958 『東山遺跡』
岩内町教育委員会　2004 『東山１遺跡』
フゴッペ貝塚　(財)北海道埋蔵文化財センター　1991 『余市町　フゴッペ貝塚』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第72集
蛇内遺跡　木古内町教育委員会　2001 『木古内町　蛇内遺跡』
木古内町教育委員会　2004 『蛇内遺跡』
ヘロカルウス遺跡　泊村教育委員会　1997 『ヘロカルウス遺跡E～G地点』
茂草Ｂ遺跡　松前町教育委員会　1979 『茂草Ｂ遺跡調査報告』
茂辺地４遺跡　北斗市教育委員会　2015 『茂辺地４遺跡』
森川３遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2006 『森町　森川３遺跡(２)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第234集

森越遺跡
八木Ａ遺跡　南茅部町埋蔵文化財調査団　1993 『八木Ａ遺跡・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団報告第４輯
南茅部町埋蔵文化財調査団　1995 『八木Ａ遺跡Ⅱ・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団報告第５輯
南茅部町埋蔵文化財調査団　1997 『八木Ａ遺跡Ⅲ　八木Ｃ遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団報告第６輯
函館市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団　2010『函館市八木Ａ遺跡』函館市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団発掘調査報告書第６輯
安浦Ｂ遺跡　南茅部町教育委員会　2001 『安浦B遺跡』
山越３遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2002 『八雲町山越３遺跡・山越４遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第166集
山越４遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2002 『八雲町山越３遺跡・山越４遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第166集
山崎５遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2002 『八雲町山崎５遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告165集
リヤムナイ３遺跡　(財)北海道埋蔵文化財センター　2005 『共和町リヤムナイ３遺跡(１)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第220集
(財)北海道埋蔵文化財センター　2006 『共和町上リャムナイ遺跡・リヤムナイ３遺跡(２)』(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第227集
若葉の森遺跡　帯広市教育委員会　2004 『帯広・若葉の森遺跡』帯広市埋蔵文化財調査報告第24冊
鷲ノ木遺跡　森町教育委員会　2008 『鷲ノ木遺跡』森町埋蔵文化財調査報告書第14集
事務局で十分な校正ができず、執筆者の方々には大変ご迷惑をかけました。

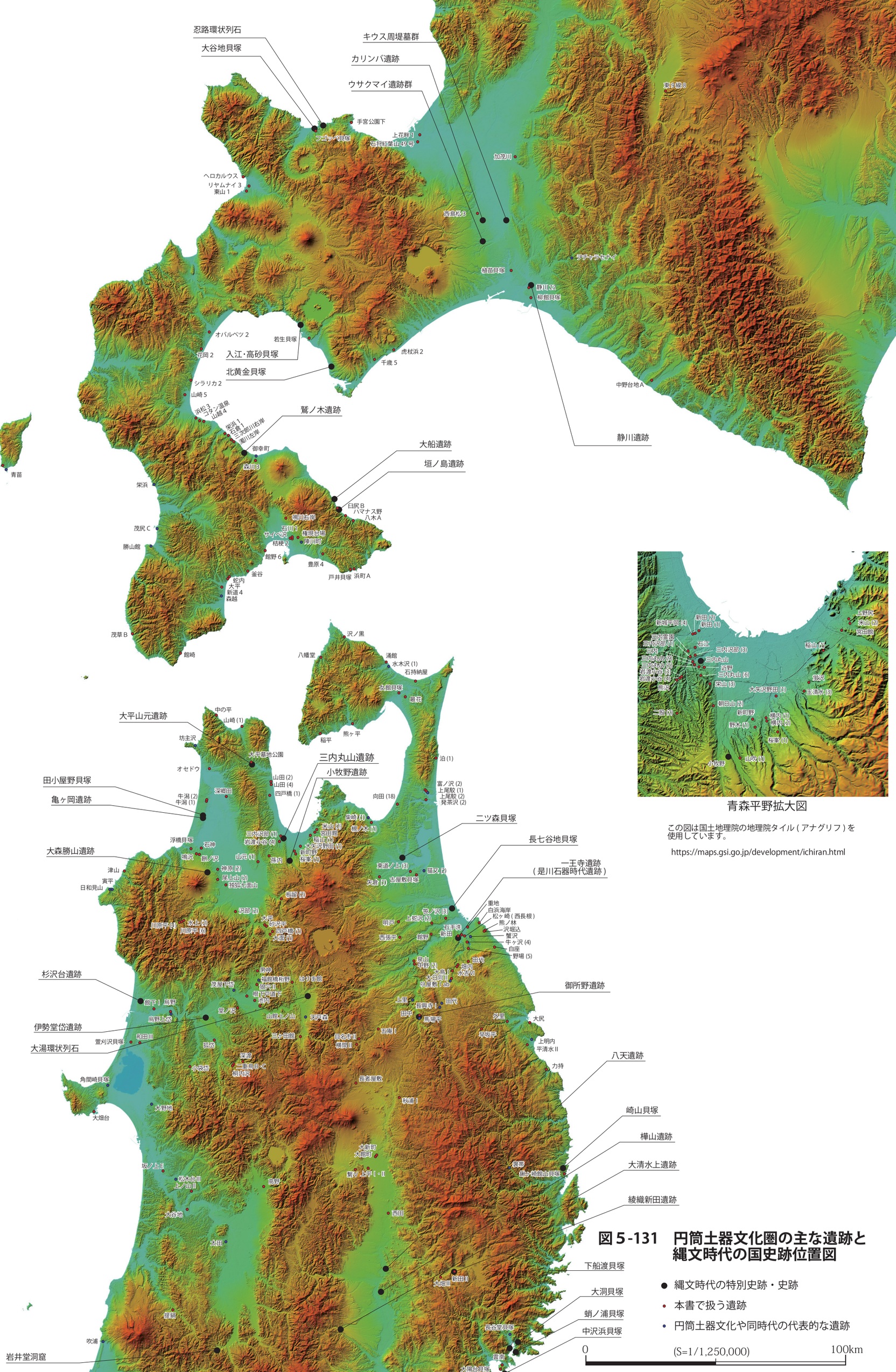

図 5-131　円筒土器文化圏の主な遺跡と縄文時代の国史跡位置図

- ● 縄文時代の特別史跡・史跡
- • 本書で扱う遺跡
- • 円筒土器文化や同時代の代表的な遺跡

特別史跡三内丸山遺跡発掘調査報告書一覧（県教委発行分）

年度	書　　名	県埋蔵文化財報告書	内　　容
1976 （昭和51）	近野遺跡発掘調査報告書（Ⅲ） 三内丸山（Ⅱ）遺跡発掘調査報告書 ―青森県総合運動公園建設関係発掘調査―	第33集	昭和51年度に調査した県総合運動公園西駐車場地区の調査報告
1978 （昭和53）	近野遺跡発掘調査報告書（Ⅳ） ―青森県総合運動公園建設関係発掘調査―	第47集	昭和52年度に調査した近野地区の調査報告
1993 （平成５）	三内丸山(2)遺跡Ⅱ ―県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ―	第157集	平成４年度に調査した旧野球場建設予定地３塁側スタンド地区検出遺構
	三内丸山(2)遺跡Ⅲ ―県営運動公園拡張事業に係る埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ―	第166集	平成４～５年度の調査概要報告
1994 （平成６）	三内丸山(2)遺跡Ⅳ	第185集	平成６年度に調査した旧サッカー場建設予定地の試掘調査報告
1995 （平成７）	三内丸山遺跡Ⅴ ―第１次～４次調査報告書　―	第204集	平成７年度に実施した第１次～４次調査の報告
	三内丸山遺跡Ⅵ	第205集	平成４～７年度の調査概要報告
1996 （平成８）	三内丸山遺跡Ⅶ ―第５次～７次調査概要報告書　―	第229集	平成８年度に実施した第５次～７次調査の概要報告
	三内丸山遺跡Ⅷ ―第６鉄塔地区調査報告書１―	第230集	平成４～５年度に調査した第６鉄塔地区の検出遺構及び第Ⅲ～Ⅴc層の調査報告
1997 （平成９）	三内丸山遺跡Ⅸ ―第６鉄塔地区調査報告書２―	第249集	平成４～５年度に調査した第６鉄塔地区の第Ⅵa・Ⅵb層及び自然科学分野の調査報告
	三内丸山遺跡Ⅹ ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書２―	第250集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
	三内丸山遺跡ⅩⅠ ―第５次～７次調査報告書　―	第251集	平成８年度に実施した第５次～７次調査の報告
	三内丸山遺跡ⅩⅡ ―第８次～10次調査概要報告書　―	第252集	平成９年度に実施した第８次～10次調査の概要報告
1998 （平成10）	三内丸山遺跡ⅩⅢ ―第11次～13次調査概要報告書　―	第265集	平成10年度に実施した第11次～13次調査の概要報告
1999 （平成11）	三内丸山遺跡ⅩⅣ ―第14次～16次調査概要報告書　―	第282集	平成11年度に実施した第14次～16次調査の概要報告
	三内丸山遺跡ⅩⅤ ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書３―	第283集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
2000 （平成12	三内丸山遺跡ⅩⅥ ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書４―	第288集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の竪穴住居跡に関する調査報告
	三内丸山遺跡ⅩⅦ ―第６鉄塔地区調査報告書３　―	第289集	平成４～５年度に調査した第6鉄塔地区の遺構外遺物に関する調査報告
	三内丸山遺跡ⅩⅧ ―第17次～19次調査概要報告書　―	第309集	平成12年度に実施した第17次～19次調査の概要報告
2001 （平成13）	三内丸山遺跡ⅩⅨ ―第20次～22次調査概要報告書　―	第337集	平成13年度に実施した第20次～22次調査の概要報告
	三内丸山遺跡ⅩⅩ ―第８次・９次調査報告書―	第338集	平成９年度に実施した第８次・９次調査の報告
2002 （平成14）	三内丸山遺跡21 ―第23次～25次調査概要報告書―	第361集	平成14年度に実施した第23次～25次調査の概要報告
	三内丸山遺跡22 ―第13次・14次・17次・20次調査報告書―	第362集	平成11～13年度に実施した第13次・14次・17次・20次調査の報告
	特別史跡三内丸山遺跡一部損傷事故に係る発掘調査報告書	第363集	南西の墓域での遺構一部損傷事故を受けた、遺存状況の確認調査報告
2003 （平成15）	三内丸山遺跡23 ―第23・26次調査報告書―	第381集	平成14・15年度に実施した第23次・26次調査の報告
	三内丸山遺跡24 ―第13・14・17・20次調査報告書―	第382集	平成11～13年度に実施した第13次・14次・17次・20次調査の遺構外遺物に関する報告
	三内丸山遺跡25 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書５ 埋設土器編―	第383集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器に関する調査報告

年度	書　　名	県埋蔵文化財報告書	内　　容
2004（平成16）	三内丸山遺跡26 ―第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査報告書―	第404集	平成９・10・11・13年度に実施した第10次・11次・12次・15次・16次・22次調査の報告
	三内丸山遺跡27 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書６ 土坑編―	第405集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の埋設土器・土坑に関する調査報告
	三内丸山遺跡28 ―第27・28次調査報告書―	第406集	平成16年度に実施した第27次調査の概要報告・第28次調査の報告
2005（平成17	三内丸山遺跡29 ―第19・25・27・29次調査報告書―	第422集	平成12・14・16・17年度に実施した第19・25・27・29次調査の報告
	三内丸山遺跡30 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書７ 掘立柱建物跡編(1)―	第423集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告1
2006（平成18）	三内丸山遺跡31 ―第18・21・24次調査報告書―	第443集	平成12・13・14年度に実施し第18・21・24次調査の報告
	三内丸山遺跡32 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書８ 掘立柱建物跡編(2)―	第444集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告2
2007（平成19）	三内丸山遺跡33 ―第30次調査報告書―	第462集	平成18年度に実施した第30次調査の報告
	三内丸山遺跡34 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書９ 掘立柱建物跡編(3)・南盛土(1)	第463集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち縄文時代の掘立柱建物跡に関する調査報告3と南盛土に関する調査報告1（拡張トレンチ部分）
2008（平成20）	三内丸山遺跡35 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書10 南盛土(2)―	第478集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち南盛土に関する調査報告2
2009（平成21）	三内丸山遺跡36 ―第31・32次調査報告書―	第494集	平成19・20年度に実施した第31・32次調査の報告
2010（平成22）	三内丸山遺跡37 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書11 写真図版編―	第509集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の既報告の検出遺構・出土遺物の写真図版編
2011（平成23）	三内丸山遺跡38 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書12 北盛土(1)―	第519集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち北盛土に関する調査報告1
	三内丸山遺跡39 ―第33～35次調査報告書―	第520集	平成21～23年度に実施した第33・35次調査の報告
2012（平成24）	三内丸山遺跡40 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書13 北盛土(2)―	第533集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち北盛土に関する調査報告2
2013（平成25）	三内丸山遺跡41 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書14 北の谷(1)―	第546集	平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち北の谷に関する調査報告1
2014（平成26）	三内丸山遺跡42 ―旧野球場建設予定地発掘調査報告書15 北の谷(2)―	第557集	平成４～６年度に調査した旧野球場建設予定地の検出遺構のうち北の谷に関する調査報告2
2015（平成27）	三内丸山遺跡43 ―第36・37・38・39次調査、北端部予備調査報告書―	第570集	平成24・25・26・27年度に実施した第36・37・38・39次調査及び北端部予備調査の報告
2016（平成28）	三内丸山遺跡44 ―総括報告書　第１分冊―	第588集	三内丸山遺跡の総括報告書
2017（平成29）	三内丸山遺跡44 ―総括報告書　第２分冊―		

旧野球場建設予定地発掘調査報告書

年度	書　　名	県埋蔵文化財報告書	内　　容
1996（平成８）	近野遺跡Ⅴ ―県総合運動公園拡張整備事業にかかる遺跡試掘調査報告―	第216集	県総合運動公園拡張計画に伴う試掘調査報告
2004（平成16）	近野遺跡Ⅷ ―県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―	第394集	平成13～15年度に実施した近野地区の調査報告
2005（平成17）	近野遺跡Ⅸ ―県立美術館及び県道里見丸山線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―	第418集	平成13～15年度に実施した近野地区の水場遺構の調査報告

報告書抄録

ふりがな	さんないまるやまいせき　よんじゅうよん
書名	三内丸山遺跡４４
副書名	総括報告書　第２分冊
巻字	
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第588集
編著者名	岡田康博・小笠原雅行・齋藤　岳・永嶋　豊・茅野嘉雄・岩田安之・斉藤慶吏・業天唯正・藤原有希・佐藤真弓・長谷川大旗
編集機関	青森県教育庁文化財保護課
所在地	〒030-8540　青森市新町二丁目３番１号　　TEL　017-734-9924
発行年月日	西暦2018年３月16日

ふりがな	ふりがな	コード		日本測地系（Tokyo Datam）		調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
三内丸山遺跡（さんないまるやまいせき）	青森県青森市（あおもりけんあおもりし） 大字三内字丸山（おおあざさんないあざまるやま）	02201	201021	40° 48′ 40″	140° 42′ 20″	—	—	既刊報告等の総括
				世界測地系（JGD2000）				
				北緯	東経			
				40° 48′ 50″	140° 42′ 07″			

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三内丸山遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡、大型竪穴建物跡、掘立柱建物跡、大型掘立柱建物跡、道路跡、土坑墓、環状配石墓、埋設土器、配石遺構、貯蔵穴、土坑、粘土採掘穴、水場遺構、捨て場、盛土	土器、石器、土偶、岩偶、土製品、石製品、骨角器、木製品、編組製品等	縄文時代前・中期の拠点的集落跡の既刊報告等の総括

要　　約	三内丸山遺跡は、縄文時代前期中葉から中期末葉の大集落跡である。これまで、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、墓、道路跡、盛土などの集落を構成する遺構が確認・調査されている。本書はこれまでの調査報告等を総括したものである。

青森県埋蔵文化財調査報告書　第588集

三 内 丸 山 遺 跡 44

総括報告書　第２分冊

発行年月日　2018年３月16日

発　　行　青森県教育委員会

編　　集　青森県教育庁文化財保護課
〒030-8540　青森県青森市新町２丁目３番１号
TEL　017-722-1111㈹　FAX　017-734-8280

印　　刷　協同印刷工業株式会社
〒035-0041 青森県むつ市金曲1-15-8
TEL　0175-22-2231　　FAX　0175-22-0435

この印刷物は370部作成し、印刷経費は１部あたり7,657円（うち、県負担は3,828円）です。